www.hoseinet.or.jp
（法政大学校友会 HP）

ORANGE JOURNAL
法政大学 校友会報
よき師 よき友 つどひ結べり

Published by 一般社団法人 法政大学校友会
発行人：竹中 宣雄（校友会会長）　編集人：坂戸 俊夫（校友会副会長）
〒102-0073　東京都千代田区九段北 3-2-3　法政大学九段校舎４階
TEL：03-3264-1831　FAX：03-3264-4770　E-mail：jimukyoku@hoseinet.or.jp

第18号（通算425号）

目　次

総長·校友会長　新春対談 …… P１
平林千牧元総長　追悼文 …… P３
パートナーだより …… P４
ウクライナ留学生支援募金募集 …… P５
進取の気象「名糖産業社長　三矢益夫さん」 …… P８
「教育界で活躍する卒業生」特集 …… P９
法政大学のリカレント教育·生涯学習 …… P10
箱根駅伝2023の展望 …… P11
第28回全国卒業生の集い「栃木大会」 …… P12

学生主導の入試広報

竹中宣雄校友会長（以下、敬称略）　本年もよろしくお願いいたします。

本学は２０２２年度入試において実志願者数が全国1位となり、法政大学の躍進は目覚ましいものと思います。女子学生の比率も高まり、キャンパスは整理され、洗練された大学に変貌していますが、こういった現状について、より発信力を高め、周知していく必要があると思います。

ＳＮＳ等を活用して、受験生に向けたメッセージの発信を強化などされているでしょうか？

廣瀬克哉総長（以下敬称略）　今、本学の広報の特色の一つは、学生を前面に押し出していくということです。オープンキャンパスでも学生が主体となって受験生に大学説明をしていますし、コロナ禍のなかでは、学生がＭＣとなりビデオを制作して、ＳＮＳ等で拡散を図るなどの工夫を取り入れて効果が出ています。また、ツイッター、インスタグラム、ユーチューブなどは、大学として積極的に活用しています。ただ、若者が、どのＳＮＳに親和性を持っているかは日々変化していますので、学生から新鮮な情報を取り入れて、機敏に選択していく方針です。

一方、受験生の父母には親和性が高い新聞などの伝統的なメディアでアピールするなどターゲットごとに媒体を取捨選択し、多方面に対応するよう心がけています。

竹中　人気校になり、レベルが高い学生が集まることは喜ばしい限りですが、それ故、学生が均質化され、特色が薄れてしまうことが懸念されます。他大学と比較して本学の優位性を発信することが大切だと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

廣瀬　本学の特色を打ち出していくためのキーワードとしているのが「自由を生き抜く実践知」です。それ自体は抽象度が高い言葉で、日常的な耳馴染みのある言葉ではありませんが、学生・教職員や卒業生の具体的な取り組み例を通して「自由を生き抜く実践知」を体現したものを実感として受け止めていただけるように、「シンボルストーリー」として発信していきたいと考えています。為末大さんや、鈴木北海道知事などの著名な卒業生の例もすぐに思い浮かびますが、そのような方だけではなく、数多くの卒業生や在学生の活動の中にも、しっかりと自由を生き抜く実践知が体現されている場面が多々あるのだということを示したいのです。毎年行っている「自由を生き抜く実践知大賞」の受賞者たちの取り組みは、その有力候補です。21年の受賞例をご紹介しますと、コロナ禍のなかで、感染防止策をとりながらもキャンパスでの学園祭を実施するために、入場者管理のためのスマホアプリを学園祭の実行委員会で開発していた例（大賞受賞）や、フィールドワークでお世話になっていたキャンパス近隣の地区で、高齢の住民の方のワクチン接種の予約代行をシステム化して実現したゼミの例などがあります。大学での学びを実社会で実践する人材の育成は、まさに本学の大学が目指しているものです。

グローバル化に対応した学生を育成

竹中　校友会は、憲章の中で「世界で活躍する卒業生と母校が社会・世界・人類の平和と発展に貢献するために、価値を創造する」と記し、社会貢献を強く意識しています。大学は「世界を意識した学生の育成」について、具体的にどのように考えられていますか。

廣瀬　以前から本学では、海外の一流大学への長期留学（半年から1年）の機会を設け、留学のための奨学資金を手厚く用意していました。コロナ禍で中断しましたが、現在では長期留学はかなり戻っていて、23年はほぼ通常の状態になりそうです。

ただ、短期間の語学研修や海外インターンシップなど、グローバル体験への入門編と位置づけられる活動については、まだ再開できていないのが実情です。23年度はそれらを再開していく年になることを期待しています。

なお、コロナ禍の中では海外大学と連携したオンラインによる国際交流プログラム、語学研修などの経験を蓄積しましたので、それが有効な場面では積極的に活用していきたいと考えています。

難関国家試験合格増に卒業生の支援

竹中　22年の司法試験の本学関係者の合格者は16人と増加して卒業生は大いに盛り上がっています。それも含め、難関国家資格試験対策の現状について、お聞かせください。

廣瀬　司法試験、公認会計士試験については、法政法曹会や公認会計士法友会のみなさんはじめ先輩の方々からご支援をいただいており、合格者増の後押しをいただいています。司法試験の大学別合格者数は、法政大学法科大学院の修了者からの合格者のみがカウントされているのですが、最も優秀な人は法科大学院の在学中に予備試験経由で合格しています。また、本学の法学部から他大学の法科大学院に進学して合格している人もいますので、本学出身の司法試験合格者は法科大学院別の公表数よりも多くなっています。

法学部に設置した法曹コースから法科大学院への進学者も順調に増えていますので、間もなくその成果が合格者数にも反映されてくるのではないかと期待しているところです。

難関国家試験については、学部在学中から試験対策講座などを設け、同じ試験を目指す学生同士が切磋琢磨しながらモチベーションを維持し、成果をあげていけるように取り組んでいます。他方、国家公務員総合職については、近年の政官関係の変化や社会全体の働き方改革に対する遅れもあり、学生の志望度合いそのものが下がっているというのが、他大学とも共通する傾向です。地方公務員については、順調に推移しています。

竹中　本学は日本初の通信教育部を設置し、リカレント教育のフロントランナー的存在です。校友会も大学に呼応して弊紙で度々特集を掲載し、リカレント教育の周知を促進しています。本学のリカレント教育の優位性について、社会にアピールする必要があるかと思いますが、大学の動きを教えてください。

廣瀬　本学では、社会人向けの大学院夜間開講を始めてからすでに30年以上が経過しました。30代近辺の方は自身のキャリアアップを目指し、50代以上の方はセカンドキャリアとして大学教員を目指す方が多く学ばれてきました。この間多くの大学において「実務家教員」が求められて来たこともあって、現在では本学の社会人大学院で学位を取得された大学教員が全国に多数在職されています。実務家としてもこの8月末まで文部科学審議官を務められた丸山洋司さんや、現在参議院事務局で内閣委員会調

【2面につづく】

2022年司法試験合格者16人に！
女性3人、経営学部卒業生も合格

２０２２年10月11日（火）アルカディア市ヶ谷で「司法試験合格祝賀式典」が開催された。

２０２２年の司法試験は３０８２人が受験し、１４０３人が合格したことが法務省から発表された。そのうち、法政大学法科大学院ならびに法政大学出身者は昨年より3人多い16人の合格となった。

祝賀会では廣瀬総長はじめ校友会三井副会長、高須法務研究科長、法政大学法曹会瀬戸会長より祝辞が贈られ、校友会からは賞状とお祝い金が合格者一人ひとりに手渡された。

祝賀会は前年に引き続き、新型コロナ対策として懇親会を伴わない式典形式となったが、合格者は一人ずつこれまでの合格に至るまでの苦労と今後の抱負を述べるとともに、緊張した面持ちでこれから自分たちが進む法曹界への期待と不安が入り混じり厳かな雰囲気で執り行われた。今年の合格者には女性が3人、また、経営学部卒業生がおり、今後の広がりを感じさせられた。

【1面からつづく】

査室長をされている宮﨑一徳さんなど、大学院での学びが実務家としての活躍にもつながっている方を多数挙げることができます。

岸田首相はリカレント教育支援に力を入れていくことを22年秋の所信表明演説で強調されましたが、本学では今後もリカレント教育に力を入れていきます。これからは、18歳での学部への入学だけが大学での学びの機会というわけではなく、キャリアの節目節目で大学や大学院に戻ってきて、必要とする学びのチャンスを得られるような大学でありたいと思います。校友会を通じて、卒業生のみなさんにそういう学びの機会についての情報をこれまで以上に積極的に発信していく必要があると考えています。

市ケ谷キャンパスは街づくりに貢献

竹中 市ケ谷キャンパスにおける今後の展望を聞かせてください。隣地購入の取得なども検討されているのでしょうか。

これからは土地を所有するのではなく、賃料を支払って利用する選択肢もあるかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

廣瀬 55、58年館の建替にともなう一連のキャンパス整備工事が21年初頭に竣工し、今後の市ケ谷キャンパスの基本的な姿はいったん完成しています。他方で、コロナ禍の経験によって大学教育における教室やキャンパスの使い方については、コロナ後にあっても単に元に戻るということではないと考えています。知識や技能の伝達を主目的とする活動については教室を使う必然性は薄いと思われます。

その一方で学生が共同作業をおこなったり、さまざまな人と交流を持つ機会は対面を基本とすることが必要です。キャンパスは主として後者に属する活動を主としていく場になっていくと思います。まずは、そのために最適なキャンパス空間や教室等の使い方を再構成していくことになると思います。他方で、建物やオフィス空間の使い方の転換は、社会全般でも生じていますので、中期的に見ると市ケ谷キャンパス周辺でも大きな土地利用の変化の波が来る可能性もあると思います。それらについては積極的に情報を収集し、大学にとって資する形の土地や建物の利用の機会があれば、それもキャンパスの構想の中に適宜組み込んでいく場面も出てくるのではないか、と思います。

竹中 大学生のいる街は活気に溢れ、楽しい空間を創造してゆきます。市ケ谷は まわりの自治体と一緒に街づくりに貢献してほしいと願います。

一方で、多摩キャンパスは学部ごとに分散しておりますが、今後も現在の形を継続していく予定でしょうか。

廣瀬 広大なキャンパスに学部等が点在する多摩校地は開設時に理想とした北米型のキャンパスなのですが、現在の学生のニーズなどを踏まえると改善の必要も意識されるようになってきました。すでに広く教職員学生も参加して、今後のあり方を構想していくワークショップも行われています。登校した学生が、すぐ各学部棟に分散していってしまい、キャンパスの中心部に求心力が欠けていることや、キャンパス全体を象徴するような場、学部横断的な交流の核になるような場を創る必要性などが指摘されています。

ただ、広大な敷地に学部単位で分散している多摩キャンパスの空間という「与えられた条件」をすぐに変えることはできませんので、所属学部に関わらず多摩キャンパスの学生、教職員が関わるような活動プログラムを展開して行くなど、キャンパスのアイデンティティになっていくようなソフト事業を契機として、多摩キャンパスが一体となって活性化できるような施策を展開して行きたいと考えています。

ブランド価値を高める体育会へ 一層の支援を

竹中 東京六大学野球は単なる野球リーグでなくサロン的存在で、六大学の伝統と文化を形成しています。全国の校友支部で「東京六大学」を冠にしたゴルフ大会や野球大会が開催されているのがその証左です。

駅伝の活躍は相当な宣伝効果を生み、志願者にも多大な影響を及ぼします。校友会は駅伝チームに対する支援に力を入れており、21年度の寄付額は20年度実績の2倍以上も集め、その関心の高さがうかがえます。

法政スポーツは本学の重要なコンテンツだと思いますが、それに見合う支援について、どのようにお考えでしょうか。

廣瀬 日本のスポーツは転換点を迎えています。科学的な分析と有効な練習によって、より短い時間で成果をあげつつ故障を防ぐことなどが求められています。本学の体育会も法政大学スポーツ研究センターを核に、それを追究していきます。

体育会学生はタテ社会に慣れていて根性があるから就職実績が良いといった社会的な認識がありますが、それは少々表面的な理解ではないかと思っています。優れたアスリートは自分を客観的に分析し、弱点を克服するための対策を粘り強く実践していける力を持っている結果として、就活の実績も高いのです。

体育会学生のそのような能力を、一般学生もあまり認識していない様なのですが、身近に居る体育会学生のこのような力を知ることで刺激を受けられればとても有用だと思います。学内にいるトップアスリートのそうした力を一般学生にもロールモデルとして共有して欲しいと思っています。

スポーツは、卒業生のみなさんが現在の大学の活動に触れる実感をもてる場であり、また応援や支援によって「支える」機会をもつことができる貴重な場だと考えています。さまざまな場面での変わらぬご支援をよろしくお願いします。

校友会に期待すること

竹中 校友会は今後も本学の発展に寄与する活動を進めてまいりますが、大学として校友会に対して期待することは何でしょうか。

廣瀬 現在の学生たちは、以前に比べて自宅通学率も高く、生まれてから大学卒業までを、家族と学校での同輩集団の中で過ごす率がますます高くなっています。就活の場面になって初めて本格的に同輩集団や身内以外の人と真剣にコミュニケーションをとる必要に迫られ、うまく対応できない人が少なくないのが実情です。

また、キャリア教育に力を入れていますが、ロールモデルとして具体像が見えにくいと考えている在学生がまだまだ多いように感じます。在学中から卒業生のみなさんと対面する機会、特にそれほど年齢が離れていない先輩の社会人のみなさんと接する機会は貴重だと考えています。

他方、校友会にとってもこの世代の卒業生のみなさんが校友会と接点をもつしくみ作りを課題として取り組んでいらっしゃると聞いています。卒業時から校友会の終身会員となった世代がそろそろこういう活動に相応しい年齢に達しつつあります。大学と校友会とで協力して、この世代の卒業生のみなさんと在学生をつなぐ活動に取り組んで行ければ大変有効ではないかと思います。

竹中 本日は有意義なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

2022年度予算について・2021年度決算について

2022年度予算（正味財産増減計算ベース）

2022年4月1日から2023年3月31日 （単位円）

科　目	当年度	前年度	増減
正味財産増減の部			
経常増減の部			
（1）経常収益			
受取会費	195,000,000	213,975,000	△18,975,000
新卒終身会費	180,000,000	208,740,000	△28,740,000
既卒終身会費	15,000,000	5,235,000	9,765,000
事業収益			
事業収益計	29,000,000	3,218,345	25,781,655
受取寄付金	100,000	0	100,000
雑収益他	1,000,000	1,128,022	△128,022
経常収益計	225,100,000	218,321,367	6,778,633
（2）経常費用			
事業費			
事業費計	31,500,000	3,942,265	27,557,735
管理費			
管理費計	75,411,000	59,292,364	16,118,636
経常費用計	106,911,000	63,234,629	43,676,371
当期経常増減額	118,189,000	155,086,738	△36,897,738
当期一般正味財産増減額	118,189,000	155,086,738	△36,897,738

2021年度正味財産増減計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで （単位円）

科　目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
（1）経常収益			
受取会費	213,975,000	222,315,000	△8,340,000
新卒終身会費	208,740,000	218,280,000	△9,540,000
既卒終身会費	5,235,000	4,035,000	1,200,000
事業収益	3,218,345	3,505,854	△287,509
受取寄付金	0	0	0
雑収益	1,128,022	1,283,169	△155,147
経常収益計	218,321,367	227,104,023	△8,782,656
(2)経常費用			
事業費	3,942,265	3,583,307	358,958
管理費	59,292,364	88,211,715	△28,919,351
経常費用計	63,234,629	91,795,022	△28,560,393
当期経常増減額	155,086,738	135,309,001	19,777,737
当期一般正味財産増減額	155,086,738	135,309,001	19,777,737
一般正味財産期首残高	1,016,347,994	881,038,993	135,309,001
一般正味財産期末残高	1,171,434,732	1,016,347,994	155,086,738
正味財産期末残高	1,171,434,732	1,016,347,994	155,086,738

2021年度　貸借対照表

2022年3月31日現在 （単位円）

科　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ資産の部			
流動資産合計	364,394,323	379,095,025	△14,700,702
固定資産			
特定資産合計	1,027,421,500	881,740,500	145,681,000
固定資産合計	1,027,421,500	881,740,500	145,681,000
資産合計	1,391,815,823	1,260,835,525	130,980,298
Ⅱ負債の部			
流動負債合計	220,381,091	244,487,531	△24,106,440
負債合計	220,381,091	244,487,531	△24,106,440
Ⅲ正味財産の部	1,171,434,732	1,016,347,994	155,086,738
負債及び正味財産合計	1,391,815,823	1,260,835,525	130,980,298

追悼・平林千牧元総長
視野の広い堅実な精神

平林千牧（ちまき）元総長の略歴

1935年8月10日	東京都生まれ
1960年	法政大学経済学部卒業
1964年	法政大学大学院社会科学研究科経済学専攻修士課程修了
1971年	法政大学大学院社会科学研究科経済学専攻博士課程退学
1972年	法政大学経済学部助教授就任
1980年	法政大学経済学部教授就任
1992年	法政大学経済学部長就任
1997年	法政大学大学院議長就任
1999年	法政大学常務理事就任
2005年	法政大学総長就任
2022年	従四位瑞宝重光章受章

歴史上のある時期に集中的に本質的で大きな転換を要求されることが生ずる。平林千牧さんとわたしが知りあったのは、法政大学の教学改革と将来構想の進展と具体化が求められるそのような困難な時期であった。平林さんの属する経済学部は1984年から多摩キャンパスに移転し新入生を迎えた。つまり、市ヶ谷の狭隘なキャンパスと私立大学にたいする政府の文教政策上のさまざまな規制に縛られる中で、本学の先進的な大学としての全体的なあり方が焦眉の解決課題となっていた途上の一つの選択として実現していた。

1935年8月生まれの平林さんは、本学の経済学部を卒業後博士課程を経て、72年に経済学部助教授に就任し、92年に学部長に選出された。わたしは90年から文学部学部長に選出され、92年は3年目にあたっていた。それ以来の付き合いである。改革の推進力となった21世紀の法政大学審議会、教学改革本部会議などで協力した。その過程で、平林さんは99年に常務理事に就任、2期務めた後、2005年に総長に選任という運びになった。平林さんは08年3月の退任まで、新しい世紀・時代を先取りした教育と学問、有為な学生を育成するための多角的な取り組みを推進した。99年の国際文化学部、人間環境学部新設から、2008年の生命科学部、GIS（グローバル教養学部）、09年のスポーツ健康学部など10学部の設置に奔走したのである。専門職大学院設置、大学院研究科の改革、各学部の改革や新設学科設置、入試改革など多岐にわたった。平林さん独自の大学マネジメントにも手をつけた。大変な膂力が必要であったが、キャンパス施設の拡大・充実などもあわせて実現にこぎつけたのである。

教学改革は、歴史的な推移を勘案しながら、教職員、学生、卒業生などの緊密な連携なしには成就しえない。特に全学の各学部教員、付属校教職員はもとより、大学職員の積極的な協力が必要である。幸運だったのは、当時の優れた職員がその部署で能力を十分に発揮したことである。それもひとえに、平林さんの常務理事、総長としての指導力と明快な教学改革ビジョン、新しい大学組織の提示などによるものだということができる。

大学主催による「お別れの会」「偲ぶ会」などは行われないという。平林さんの生前の意思かどうかは不明である。新型コロナウイルス感染爆発の現在の状況によりあえて執り行わないということもありうる。もともと、平林さんの資質からして、また、大学のガバナンスを考えて、その時期に求められるもっとも適切なあり方をとる、という考えに発しているのかもしれない。まことに惜しい人が向こう側にいってしまった。さまざまな事情で、近年膝を交えて話すことがなかった。酒を酌み交わしながら、人間、学問、大学、社会、世界のことなどをじっくりと話しあいたかった。また、わたしの携わる文学についても語り合える懐かしい人なのであった。返す返すも、無念のかぎりである。2022年7月30日が今生の別れであった。享年86歳。今は、向こう側からわたし達の到らないところをするどく黙視してもらいたいと思うのみ。

（合掌）

（法政大学名誉教授
元常務理事　堀江拓充）

校友会員のための優待サービス
「法政大学校友会クラブオフ」紹介

法政大学校友会クラブオフの概要

「法政大学校友会クラブオフ」（以下、校友会クラブオフ）とは、校友会員（※）が、全国20万以上の飲食店や宿泊施設、レジャー施設等を優待・割引価格で利用できるサービスです。校友会員ご本人だけでなく、ご家族・ご友人など同伴者も同様に優待を受けることができる大変お得なサービスとなっております。

2022年1月より開始している本サービスは、おかげさまで多くの会員の方々にご利用いただいております。2022年1月～8月末までの累積利用件数は約2万1千件、累積ページビュー数は30万件を超えており、利用者の皆様にご好評いただいております。

※卒業生のうち、校友会費（終身会費3万円）を納入した方

サービスをご利用いただけるシーン

校友会クラブオフの優待は、下記のとおり非常に幅広いシーンで、ライフスタイルに応じてご利用いただけます。

全国展開しているチェーン店に加えて、各都道府県にしかない店舗・施設でも様々な優待サービスをご利用いただけます。

<ご利用できるシーンの一例>

レストラン、居酒屋、カフェ、映画館、カラオケ、ホテル・旅館、遊園地、水族館、美術館、スパ・日帰り湯施設、スポーツジム、ゴルフ場、ガソリンスタンド、レンタカー、資格スクール、家具・生活雑貨のお買い物等

おすすめのサービス内容

■ホテル・旅館の宿泊料金割引

旅行やレジャーがお好きな方は、ホテル・旅館に宿泊される際に「校友会クラブオフ」をご利用してみてください。割引対象のホテル・旅館は全国に2万軒以上あり、最大で90%OFFになる場合があります。宿泊施設に加えて、日帰り湯施設、テーマパーク、ゴルフ場、レンタカー等も優待価格で利用することで、お得な旅をすることができます。

普段の生活、ご家族やご友人との旅行・お出かけはもちろん、パートナー組織でのイベントや「全国卒業生の集い」といった様々な機会で賢くお得にサービスをご利用してみてください!

■レストランでの料金割引

グルメな方は、レストランでお食事される時に「校友会クラブオフ」をご利用することをおすすめします。お得な価格でご利用いただけるレストランは、ホテルの中にある人気のレストランから全国展開しているチェーン店まで、全国に5万軒以上ございます。大切な人との記念日ディナー、仲の良い友人とのビュッフェ、職場の同僚との飲み会、日常のランチなど、多様なシーンでお得にご利用いただけますので、ぜひご活用ください!

■上記の他にも、様々なおすすめサービスがあります。校友会の会員の方々に人気のサービスランキング（2022年8月末現在）は下記のとおりです。

人気優待ランキング

1位	コメダ珈琲店	たっぷりサイズへのサイズアップ無料
2位	ガスト	セットドリンクバー 263円▶109円
3位	ビックカメラ コジマ	お会計金額3%OFF
4位	ココス	プレミアムドリンクバーセット 319円▶108円
5位	バーミヤン	本格焼餃子（6個）274円～285円▶153円 セットドリンクバイキング 219円～274円▶110円

～利用者からの声～

70代男性
週に1回くらいの頻度でコメダ珈琲店に行き、サイズアップ無料の優待を使っています。お得なサービスなので、ありがたいです。

30代男性
友人と大江戸温泉物語 浦安万華郷に行ったときに利用しました。一人につき660円も安くなったので、浮いたお金でお土産の入浴剤を買いました。

20代女性
映画を観ることが好きなので、レディースデイ以外の日もチケット代金が500円引きになって嬉しいです!

複数のサービスを組み合わせた活用事例

■栃木県日光・鬼怒川方面に1泊2日の小旅行コース

栃木県日光・鬼怒川方面に1泊2日で旅行をする場合、下記のようなプランだと一人につき1,700円の割引に加え、レンタカーとホテルを特別価格でご利用いただけます。

鬼怒川温泉駅に着いたら、「ニッポンレンタカー」でレンタカーを借ります。「ニッポンレンタカー」では特別料金（最大55%OFF）で利用でき、さらにスマートフォン上で空車確認から予約まで一括で行うことができます。

車に乗って、まず向かうのは、世界の有名建築物が25分の1の縮尺で精巧に再現されている「東武ワールドスクウェア」へ。こちらの施設は、入園料が500円引きとなる優待が利用できます。「東武ワールドスクウェア」を楽しんだ後は、「鬼怒川仁王尊プラザ」にある人気の屋形舟露天風呂に入ってひと休み。「鬼怒川仁王尊プラザ」では、入浴料が200円引きとなります。

温泉で温まり、本日の宿である「日光金谷ホテル」へ。こちらのホテルは、明治6年創業の日本最古のクラシックリゾートホテルです。美味しいフレンチを堪能し、景色の良い部屋でゆっくり休むことができます。曜日・シーズンによって金額が変動しますが、1泊2食付きで最安20,805円で宿泊することができます。

翌日は「江戸ワンダーランド日光江戸村」に行き、お芝居を観たり、侍に変身したりして一日満喫します。こちらの施設では、一日遊べるフリーパス「通行手形」が1,000円引きとなります。

お得な優待サービスを活用しながら、2日間たっぷり栃木県を楽しみました!

■横浜みなとみらいに日帰りお出かけコース

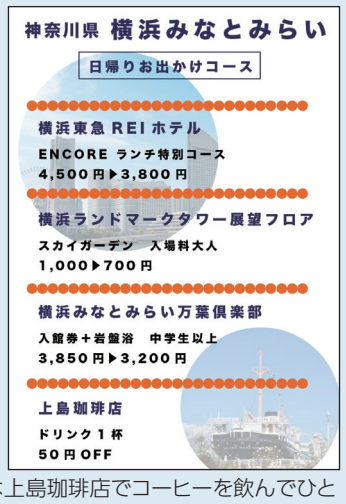
都内からアクセスの良い横浜みなとみらいエリアに日帰りでお出かけする場合、右記のようなプランだと一人につき1,700円の割引を受けられます。

横浜に着いて、まずは「横浜東急REIホテル」のランチ特別コースを楽しみます。横浜の特色である中華と洋食をアレンジした新しいスタイルのビストロチャイナが700円引きとなります。

ランチの後は、みなとみらいのシンボルである「横浜ランドマークタワー」の展望フロアで、地上237メートルの大きな窓から横浜の景色が一望できます。こちらの施設では入場料が300円引きです。

横浜の景色を眺めた後は、熱海温泉・湯河原温泉の源泉から運ばれてくる本格温泉「横浜みなとみらい万葉倶楽部」へ。入館券と岩盤浴のセットが3,850円から3,200円に割引されます。こちらの施設では、温泉と岩盤浴に加えて、エステで癒されたり、のんびり漫画を読んだりすることもできて、一日中館内でゆったりと過ごすことができます。最後は上島珈琲店でコーヒーを飲んでひと休み。こちらのお店では、ドリンク1杯50円引きとなります。

様々な優待サービスを組み合わせて、みなとみらいを満喫した一日となりました!



今回紹介した優待は一例であり、他にも数多くの優待があります。

なお、優待のご利用には条件がある場合がございます。また、優待内容は予告なく変更される場合がございますので、事前にご確認ください。

【校友会クラブオフニュースについて】

上記の他にも多様なサービスがあり、会員の皆様にご活用いただけるよう、「校友会クラブオフニュース」を法政大学校友会公式HP上で定期的に配信しております。

「お取り寄せホテルグルメ特集」、「新社会人向け特集」といったテーマごとにおすすめの優待を紹介する記事のほか、優待が使える観光スポットで構成された旅行プランのご紹介など、さまざまな切り口からお得な優待情報をお届けしています。こちらもぜひご覧ください。

【サービスご利用方法】

サービスご利用にあたっては、下記のQRコードより「校友会クラブオフ」専用ページにアクセスいただき、ログインIDとパスワードをご入力ください。

ログインID	校友会の会員番号（数字7桁）
パスワード	ご自身の生年月日（数字8桁）

※校友会の会員番号は、終身会員の方にメールまたは郵送で個別にお知らせしております。ご自身の会員番号がご不明の場合は、校友会事務局（03-3264-1831）までご連絡ください。

【校友会の終身会員のお申し込み方法】

校友会の終身会員のお申し込みをご希望の方は、下記のQRコードよりお手続きください。なお、2014年3月以降の学部卒業生は、4年次春学期の学費と共に終身会費3万円を納入いただき、卒業と同時に校友会の終身会員となりますので、お申し込みは不要です。

PARTNER NEWS

パートナーだより

地域・卒業生団体
学部・付属校同窓会

文学部同窓会

「渋沢史料館」を訪ねる

文学部同窓会では、「特別企画」として、春と秋に都内・近郊散策を行っています。

11月18日（金）、本会の井坂義雄元会長（本学名誉教授）にご参加いただき、令和6（2024）年から新1万円札の顔となる渋沢栄一（1840～1931）に関する史料を集めた「渋沢史料館」（北区西ヶ原）を訪れました。

渋沢史料館は、昭和57（1982）年、王子駅近くの飛鳥山の旧渋沢邸跡地に開設されました。

史料館には、生涯に500社以上の企業の設立に関わり、「日本資本主義の父」と言われる渋沢栄一の幕末から昭和初期にわたる多彩な活動の軌跡を示すパネルや資料が展示されていました。

史料館の展示を見て、企業経営において、「私利を追わず、公益を図る」を理念とする「道徳・経済合一説」を説いて、経済活動はもとより、教育事業や福祉事業にも力を注いだ渋沢栄一の思想と行動がよく理解出来ました。

（75年史学科卒・金森和彦）

渋沢史料館で

社会学部同窓会

3年ぶりに対面での定期総会を開催

社会学部同窓会では6月11日（土）、本年度定期総会を市ヶ谷校舎にて、コロナ禍を考慮して教室参加とオンライン参加のハイブリッド型で開催しました。

開会にあたり石坂悦男名誉教授と同窓会名誉会長の宇野斉社会学部長よりご挨拶をいただき、総会後には宇野先生の記念講演会「社会ネットワークと同窓会」を開催しました。初のオンライン総会には、「今後、より工夫を重ね、全国の会員が参加できる機会づくりをしていこう」という声が上がりました。

本年度10月末までに実施した活動は、六大学野球観戦の集い（5月22日）、会報60号発行（6月1日）、社会学部学生300人が参加した同窓会寄付講座「職業社会論」（6月28日）、大人のグルメ散歩（7月17日）、社会学部開設70周年記念公開授業（10月19日）への協力、六大学野球観戦の集い（10月22日）です。

今後は、会報61号発行（1月1日）、箱根駅伝応援及び新年会（1月3日）、優秀卒業論文表彰（3月）、卒業祝賀会支援（3月24日）を予定しています。

（副会長兼事務局長　赤池慎一）

対面とオンラインで開催した定期総会

沖縄県校友会

九州・沖縄ブロック会議を開催

3年ぶりの対面開催となる、第19回九州・沖縄ブロック会議が、8月27日、那覇市のパシフィックホテル沖縄で開催されました。

鈴木洋一幹事長が司会を務め、仲田美加子開催地会長挨拶の後、常務理事・副学長の奥山利幸様、校友会副会長の坂戸俊夫様からご来賓挨拶をいただき、議事進行。

まず、大学校友会及び大学への要望・意見が活発に議論されました。

次に、宮崎県校友会の甲斐誉一郎様から、次期開催地のご挨拶があり、最後に、「一般社団法人法政大学校友会奨学金」、「箱根駅伝応援募金」への協力依頼がされました。

会議の後、奥山副学長講話「法政大学の現状と未来」がなされ、父兄、現役学生も含め70名の参加。参加者からは、第二期中期経営計画、HOSEI2030などが非常に分かり易く、有意義な内容だったとの声が上がりました。

引き続き、感染対策認証店の琉球料理と唄と踊り「うらしま」で行われた懇親会では、高良文雄名桜大学理事長、ご来賓の後援会沖縄県支部長の當間栄作様のご挨拶で和やかに始まりました。九州からの参加者は、琉球料理と踊りを堪能しました。

最後は時節柄、声を出さない校歌斉唱、普久原啓之沖縄県校友会副会長の閉会の辞で終了しました。

（副幹事長　新垣淑博）

コロナ禍前に戻ったような盛り上がり

千葉県校友会内房支部

楽しくにぎやかな定期総会
懐メロで親睦深める

令和4年度の千葉県校友会内房支部の定期総会が8月27日、木更津市の東京ベイプラザホテルで会員25人が出席して開催された。

【5面につづく】

和歌山県校友会

新執行部がスタートし、新会員が急増

校友の皆さま、和歌山県校友会です。初めてオレンジジャーナルへ投稿いたします。弊会は昭和32年設立（初代会長中尾武雄弁護士）で、今日まで60有余年に亘って歩を進めてまいりました。

さて9月3日、新型コロナウイルス感染症対策を万全に行ったうえで和歌山市のホテルアバローム紀の国において令和4年度法政大学和歌山県校友会総会・懇親会を開催しました。当日は本県出身の竹中宣雄会長をはじめ校友会本部から4名、関西ブロック校友会（大阪府・兵庫県）から3名のご来賓を含む22名の方にご出席をいただきました。

総会では人事案が審議され、出席者全員の拍手により新たに大岩徳成（おおいわ・よしなり）会長と新役員のご承認をいただきました。会長は就任挨拶で、母校への熱い想いと弊会の再起にかける不退転の決意を切々と語り、その言葉は出席者の心に響くものでした。

続いて懇親会では法政の名のもとに集まった校友との親睦を深め、天下に冠たる法政大学校歌を歌い、集合写真を撮影するなど閉会まで和気あいあいと楽しい雰囲気に包まれました。これで遅れていた西ブロック校友会との連携をこれまで以上に緊密にし、法政ネットワークの充実を図ってまいります。

まずは代表議員を選出するために必要な終身会員40名以上の早期確保をめざします。弊会についてはネット検索していただき「法政 和歌山」でインターネットページをご覧ください。全国いや、全世界にいる和歌山県出身の法大卒業生の皆さんに弊会の「思い」が伝わることを願ってやみません。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

（副会長　川上敏明）

SERIES 校友会紹介

ESSAY 校友随想

"法政おおわが母校"を卒業して幾年。各地で活躍し、その後の人生模様を寄稿願った。

全く経験がなかった広告会社を設立して

株式会社 ディー・エム広告社
取締役会長
藤本 順一
'73年 工学部 電気工学科卒

私が本学工学部電気工学科に入学した1969年は大学紛争が激しく、東大入試が中止になった年でした。通学した小金井校舎はそのような影響を受けることなく、のんびりとした学生生活を過ごしました。卒業後はIT関係の会社に就職し、1年半程在籍した後、全く経験がなかった広告業の会社を創業しました。早いもので会社も48年目になりますが、7年程前に同窓である長男に社長業を任せ、会長として微力ながら会社の成長を見守っている次第です。

思い返せば人との出会いに恵まれた日々でした。多くの方々との交流により、会社としても人としても一番大事なことは信頼されることだと考え、社内でも折に触れ伝えて来ました。ご支援いただいた方々に深く感謝しています。

この数年間のコロナ禍で、人々の交流が思うように行われなかったことを深く憂慮しています。

法政大学校友会が卒業生同士の新たな交流の場として大いに活動し、母校のさらなる発展を、願っています。

企業の人事で母校の後輩と会う楽しみ

エイベックス株式会社
人事グループ
シニアスーパーバイザー
北原 鮎子
'02年 社会学部 社会学科卒

大学入学まで親の敷いたレールの上を何となく歩いてきた私にとって、自身で道を切り開かなければならない就職活動はとてつもなく高い壁でした。

そんな中「自分は一体何者なのか」「社会に貢献できることは何なのか」を、仲間達と共に考える機会を与えてくれたのが自主マスコミ講座です。良くも悪くも身の程を知り、色んな現実を突きつけられたあの2年間は、まさに青春だったなと思います。

会社で採用を担当する中でも、自主マスは優秀な学生が集まる採用母集団の一つとなっていますが、かつての自分と同じように色々と悩みながら進み続ける皆さんを前にし、当時のことを懐かしく思い出します。

仕事上、取材いただいた際には、何やら偉そうなことを申しておりますが、プライベートでは家族や友人の助けも借りながら、〝育児ならぬ〝育自〟に日々奮闘しており、学生時代当時の自分に「仕事とは別軸で超高難度のミッションが待ち受けている」と、耳打ちしてあげたい気分です（笑）

子供の可能性を信じて、全力で応援する教師に！

埼玉県鶴ヶ島市立
藤小学校教諭
濱中 麻有
'17年 社会学部 社会政策科学科卒

「やってみたい！」そう思ったことは迷うことなくチャレンジした大学生活だった。東北ボランティア。スーパー銭湯のアルバイト。イベント会社のインターンシップ。自主マスコミ講座。吹奏楽サークル。自由奔放な私を母は全力で応援してくれた。就職活動が始まっても「やってみたい！」と思ったマスコミの仕事など様々な業界にチャレンジした。そのときも母は焦らず咎めず認めてくれた。

自分のやりたいことに全力で向き合う中で恩師との出会いがあり、教師を志すようになった。何度も教員採用試験を受験し、落ち込んだとき、家族や友人、先輩教師は「絶対大丈夫、諦めるな」と励ましてくれた。

そして今年、埼玉県の教員採用試験に合格することができた。初めての担任で不安もあるが、母のように、子供たちの可能性を信じて一人ひとりの良さを伸ばしていける教師になりたい。まだスタートラインに立ったばかり。先輩方から多くのことを吸収して「やってみたい！」ことにチャレンジし続けていきたい。

「ウクライナ避難学生支援募金」への協力について

昨今のウクライナの危機的な状況に鑑み、本学は人道的な支援として、軍事侵攻を逃れ日本へ入国し、学修の継続を希望するウクライナの学生を支援し本学での学修の機会を提供することにいたしました。9月より短期私費留学生として受入れを開始し、学費の免除、宿泊施設の提供、生活費の支援等を行っております。

軍事侵攻により学修の機会を奪われたウクライナの学生を受け入れるにあたり、日本で安全な環境の下学びの機会を与え、またウクライナの生活が再建されるまで長期化が予想される日本での避難生活を支え続ける必要があると考えております。また本学で得た知識を通して、ウクライナの発展及び日本とウクライナの交流に寄与できる人材の育成を目指しております。

つきましては、ウクライナ避難学生の修学及び生活を支援するため、支援募金を実施しております。本支援募金の趣旨にご賛同いただき、本学で受け入れるウクライナ避難学生のためのご支援ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

ウクライナからの4名の留学生

◆募金要項◆

(1)名　　称:ウクライナ避難学生支援募金
(2)期　　間:2022年8月1日～2023年3月31日
(3)金　　額:金額を問わずお受けいたします。
(4)募集対象:学生、保証人、卒業生、教職員、法人、その他ご賛同いただいた方
学生・保証人は2年生以上の在籍者のみといたします。
※新入生またはその保護者からの寄付は、「学校の入学に関してする寄付金」とみなされる場合があるため、募集の対象外とさせていただきます。
(5)使　　途:本寄付金は、ウクライナからの避難学生の宿泊施設の提供、生活費の支援等に活用させて頂く予定です。
(6)特　　典:法政大学へのご寄付は寄付金控除の対象となります。本学から送付いたします「領収書」と「特定公益法人であることの証明書(写)」もしくは「税額控除に関わる証明書(写)」を使用して、税務署で確定申告を行ってください(領収書等の送付:1~2ヶ月程度)。
(7)申込方法:インターネットによる振込

<インターネット>
下記URLもしくは二次元バーコードより申込ページにアクセスしてください。
https://fundexapp.jp/hosei/entry.php?ext2PurposeCode=7000000
<お問い合わせ先>
募金申込方法:法政大学卒業生・後援会連携室募金課　bokin@hosei.ac.jp
募 金 の 主 旨:法政大学グローバル教育センター　ic@hosei.ac.jp

【4面からつづく】

総会では小尾(おび)明支部長(昭和46年3月、法学部卒)が「コロナ禍の中、全会員の3分の1が参加して総会を開催できたことは奇跡的であり、さらに終身会員を増やそう」と挨拶した。

続いて令和3年度の活動報告や決算会計報告、同4年度の活動計画案、予算案、役員改選が満場一致で承認された。

懇親会の模様

一時休憩の後、懇親会に移り、千葉市内などで演奏活動をしている「なぎさ懐メロ楽団」(新行内実(しんぎょううち・みのる)代表)による生演奏が披露された。新行内氏は昭和46年3月、経済学部卒業後、千葉銀行に入行、同行グループ会社社長や会長を歴任した。千葉銀行時代に「ちばぎんライトミュージックバンド」を結成、バンドリーダーを務めトランペット、テナーサックスを担当している。退職後、千葉市内の音楽好きの仲間5人と「なぎさ懐メロ楽団」を立ち上げ、福祉施設などで慰問活動を行っている。

懇親会では「有楽町で逢いましょう」「南国土佐を後にして」「川の流れのように」など全14曲を約1時間にわたって軽快に演奏、会場から割れんばかりの拍手が送られた。フィナーレは校歌の演奏が場内いっぱいに響きわたり最高の盛り上がりを見せた。窓外には真っ赤な夕焼け空が広がり、校友たちは次回の再会を約して散会した。

(副支部長　大沼邦彦)

愛媛県校友会

東京六大学野球オールスターゲームin愛媛

コロナ禍に伴い開催が延期となっていた、2022 in 愛媛の東京六大学野球オールスターゲームが8月27日(土)松山坊っちゃんスタジアムで開催された。

晴天の中、各校友会代表の始球式や伝統の応援に会場は大いに盛り上がった。

東京六大学野球オールスターゲームは、12年前にも開催され今回が2度目の開催となった。六大学の有力選手が2022年の春季リーグ戦の成績により、2位、3位、6位校がオーシャンズ、1位、4位、5位校がマウンテンズの2チームに分かれての試合である。我が母校法政大学はマウンテンズに属し、このオールスターゲームで唯一の愛媛県出身選手、法政大学野球部捕手の村上喬一朗選手(法学部4年、東福岡高校)の5打数2安打の活躍で、マウンテンズが大勝してゲームセットとなった。

松山坊っちゃんスタジアム

我々のように地方に住んでいると、六大学野球を目前で観戦するなどの機会もなく、学生時代にはリーグ戦での法政大学を応援する為に神宮球場によく足を運び、喜んだり悔しがったりした思いが蘇った。何とかしてあの時代に戻れないものかと思いつつ家路についたのは、私だけではなかったのではないかと思う。

(清水和憲)

千葉県校友会東葛支部

法政大学創立者 薩埵正邦先生の墓参

残暑厳しい9月6日(火)、千葉県東葛校友会は法政大学創立の中心者であった薩埵正邦先生の墓参を実施、会員13名が参加した。

墓参に際し、事前にお墓を管理されておられるご親族の薩埵浩之氏(日本航空パイロット訓練教官)のご承諾を得、お墓がある阿弥陀寺(茨城県常総市坂手町)のご住職に連絡して伺った。

午前11時、関東鉄道常総線水海道駅に集合、会員のマイカー4台に分乗して20分ほどで阿弥陀寺へ到着。

阿弥陀寺は1234年健立、鎌倉時代初期の浄土真宗大谷派の古刹で、県道から山門を入り、長い参道を歩くと正面に古い木造の大きな本堂があり、歴史を感じさせる寺院である。緑濃い森林に囲まれ、静寂とした、時の流れを忘れさせる中に佇んでいる。ご住職の話では、春の桜、秋の紅葉は見事だそうだ。

早速ご住職の小和浩嗣氏に墓地を案内していただいた。マイカーの2人は墓参用の水桶を自宅から用意してきていた。

お墓は1994年(平成6年)京都・大徳寺の塔頭芳春院から改葬されたとお伺いしている。広い霊園の一画にあり、薩埵正邦先生の戒名は「日新斎豁堂正邦居士」と彫られている。

明治維新間もない混沌とした世相の中で京都から上京、ボアソナード博士の下で法律を学び、人々に法律の知識を普及させようと「東京法学社・東京法学校」を創立、開校後も多くの困難を乗り越えられたご苦労に深く思いをいたし、墓前にお花を供え、参加者一人ひとりがお線香を手向け、今日の法政大学の発展を墓前に報告した。ご住職は私たちの墓参を最後まで見守ってくださった。

汗が流れる暑い日であったが、皆清々しい心で帰路についた。

(会長　寺内敬寿)

13人が墓前で手を合わす

〈叙位・叙勲〉

従四位・瑞宝重光章
故平林 千牧氏(元法政大学総長)
22年7月30日付

〈2022 秋の叙勲受章者〉

瑞宝中綬章
金子 征史氏(法政大学名誉教授)73年法政大学大学院博士課程単位修得満期退学
西海 英雄氏(法政大学名誉教授)
旭日小綬章
三宅 義行氏(日本ウエイトリフティング協会会長)68年経営学部卒

〈新社長・新理事長〉

○巣鴨信用金庫
二瓶 克博氏(にへい・かつひろ)89年法学部卒
22年6月就任

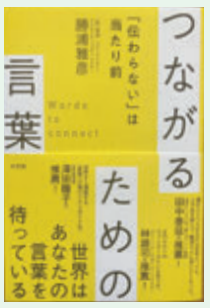
○水戸信用金庫
飯村 次男氏(いいむら・つぎお)90年経営学部卒
22年6月就任

〈訃報〉

○菊地 敏雄氏(法・政卒)21年12月4日没 享年71歳
○木暮 博氏(工・機械卒)22年2月6日没 享年77歳
○石井 宏氏(文卒)22年6月10日没 享年70歳
○梅田 光男氏(法・法卒)22年6月25日没 享年71歳
○佃 堅輔氏(経済学部名誉教授)22年7月9日没 享年86歳
○平林千牧氏(経・経卒/1964年大学院経済学修士課程修了)22年7月30日没 享年86歳
元法政大学総長
○池田 俊彦氏(人間環境学部名誉教授)22年7月30日没 享年77歳
○田澤 耕氏(国際文化学部名誉教授)22年9月24日没 享年69歳
○垣本 一雄氏(経・経卒)22年10月7日没 享年68歳
○寒川 一郎氏(法・政卒)22年10月27日没 享年86歳
○高橋 献一氏(1969年営・営卒)没年・享年不明
○角田 邦雄氏(1962年法・法卒)没年・享年不明
○塩田 正信氏(2019年通教法卒)没年不明・享年75歳
○青木久氏(1963年営・営卒)没年・享年不明
○深津 博正氏(1951年短期二部商経卒)没年・享年不明
○大山信一氏(1977年営・営卒)没年・享年不明
○林 清氏(1967年営・営卒)没年・享年不明
○蔵迫 研郎氏(1975年経・経卒)没年・享年不明
○近藤 征也氏(1962年工・建築卒)没年・享年不明
○龍 敏夫氏(1974年法・法卒)没年・享年不明

※ご連絡を頂いた校友会終身会員、大学教員を記載しております。
謹んでご冥福をお祈り致します。

本の散歩道



つながるための言葉

愛と優しさのこもったコピーで数々のコピー賞を受賞した勢いがあるコピーライターの渾身の一冊である。ボアソナードタワーの名付け親で、母校でも教鞭をとり、多くの後輩たちを広告はじめマスコミ業界に送っている。

就職活動や転職活動にも言及しているが、単なるハウツー本にはない教養が溢れ、博学ぶりがみてとれる。

―気づいていないだけで「世界をよくする言葉」はあなたからも生まれているのです。―(本書より)

勝浦 雅彦 著(光文社)　2000年法学部卒業(株)電通

1億2000万人の矢沢永吉論

ジャパニーズロックの元祖であり、唯一無二のカリスマ性を誇るアーティストとして、今なお多くのファンを虜にする矢沢永吉。そんな彼を支えるのは「YAZAWA」の歌を、ステージを、そして生き方を愛し続けるファンたちだった。矢沢に魅了され、自らの生き方さえも変えるにいたった市井のファンを丹念に取材。「矢沢永吉とは何なのか?」に迫った渾身のノンフィクション。

浅野 暁 著(本名・大寺 明)(双葉社)　1995 年文学部卒業

謹賀新年

卒業生の皆様
本年もよろしくお願いします

法政大学校友会名誉会長
法政大学 総長 廣瀬克哉

法政大学校友会 会長 竹中宣雄 法政大学2号評議員 社会学部 1972年卒

法政大学校友会 副会長 田﨑稔 経済学部 1979年卒

法政大学校友会 副会長 坂戸俊夫 経営学部 1969年卒

法友体育会名誉会長 法政大学校友会 副会長 大森廣行 経営学部 1970年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 三井和夫 経済学部 1978年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 総務部会長 中村寿美子 法学部 1981年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 事業部会長 石渡洋行 法学部 1983年卒

法政大学理事 法政大学校友会 副会長 岡本眞司 経営学部 1970年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 池谷文雄 法学部 1980年卒

法政大学校友会副会長 法政大学応援団OBOG会 会長 田中利幸 経営学部 1982年卒

法政大学校友会 参与 財務部会長 北村武 経済学部 1974年卒

法政大学校友会監事 弁護士 山嵜正俊

法政大学校友会 法政士業の会・法政会計人会 監事 発地敏彦 発地敏彦税理士事務所 経営学部 1976年卒

法政大学校友会 監事 飯塚昇 経営学部 1974年卒

法政大学1号評議員 法政大学校友会 監事 廣岡康久 法政大学法人統括本部長 法学部 1984年卒

法政大学校友会 監事 伊藤昌子 法政大学後援会事務局長

法政大学 常務理事 副学長 小秋元段

法政大学 常務理事 副学長 佐野哲

法政大学 常務理事 副学長 奥山利幸 経済学部 1986年卒

法政大学 常務理事 小澤雄司 社会学部 1986年卒

法政大学 常務理事 副学長 金井敦

法政大学 常務理事 和仁達郎

法政大学 常務理事 副学長 ダイアナ・コー

法政大学 常務理事 副学長 岩崎晋也

法政大学 常務理事 平山喜雄 法学部 1987年卒

謹賀新年
法政財界人倶楽部

法政財界人倶楽部は設立30周年を迎えます。
上場企業の「役員・執行役員」会員（現在260名）に加え、「部長職・課長職」会員（現在142名）の入会も受け付け中です。
法政財界人倶楽部事務局まで申し込み連絡をください。

会長　村田 紀敏　昭和41年卒
（株）セブン＆アイ・ホールディングス　元COO兼代表取締役社長
連絡先　法政財界人事務局　副会長　佐々木郁夫
TEL　03-3369-0804　担当　齋藤・道山・矢賀部

法政財界人倶楽部 会長 村田紀敏 （株）セブン&アイ・ホールディングス 元COO兼代表取締役社長

法政財界人倶楽部 副会長 山口学 （株）関電工 元取締役会長

法政財界人倶楽部 副会長 田邉光雄 信金中央金庫 相談役

法政財界人倶楽部 副会長 竹中宣雄 ミサワホーム（株） 取締役

法政財界人倶楽部 副会長 堰八義博 （株）北海道銀行 特別顧問

法政財界人倶楽部 副会長 瀧澤利一 （株）バルカー 代表取締役CEO

法政財界人倶楽部 副会長 佐々木郁夫 （株）日本共同システム 代表取締役会長

謹賀新年
法政大学東京都校友会

会　長　山本　富士哉（63・法）

副会長　林田　有史（65・法）
副会長　元角　昌三（70・経）
副会長　平崎　孝司（67・営）
常任理事　井上　茂秋（65・法）
常任理事　小田島英一（75・法）
監　事　田中　正雄（80・工）
副会長　伊藤　元一（64・営）
副会長　大塚　英男（78・法）
常任理事　島田　秀考（59・経）
常任理事　緒方　一郎（74・文）
常任理事　森屋　貞明（71・法）
監　事　齋藤　功（85・法）

事務局　〒140-0014 東京都品川区大井3-18-15-813
携帯：090-7730-5113　E-mail:hoykta19@yahoo.co.jp

迎春
法政大学後援会

～子どもの母校は我が母校～

〒102-0073
東京都千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎4階
TEL. 03-3264-9392
FAX. 03-3264-9367
E-mail : koenkai@hosei. ac. jp
URL : https: //www.hosei-koenkai. org/

賀春
一般財団法人 法政大学経営者懇談会

これからの日本を背負うのは中小企業の経営者達です。企業経営者、学生経営者、起業家、後継者たちが会員です。
幅広い業界、校友をはじめとして有意義な活動を一緒にしませんか！ 入会をお待ちしています。

代表理事　金子正之
ご入会お問い合わせは以下事務局まで
〒175-0083 東京都板橋区徳丸4-11-2 中尾建設工業㈱内
Mail: hosei-keieisya@oboe.ocn.ne.jp
Web: http://hosei-keieisya.com/

（順不同）

法政大学校友会
名誉顧問 桑野秀光
法学部 1960年卒

法政大学校友会
名誉顧問 佐々木郁夫

法政大学校友会顧問
法政大学校友会北海道ブロック
理事 西岡憲廣
札幌山の手高等学校理事長・校長
法学部 1963年卒

法政大学校友会顧問・北信ブロック理事
富山県校友会
会長 松井幹夫
法学部 1964年卒

法政大学校友会顧問
大阪府校友会
名誉会長 樋口正蔵
法学部 1962年卒

法政大学校友会
顧問 豊田信哉
法学部 1961年卒

法政大学校友会
顧問 井上泰一
法学部 1969年卒

法政大学理事
法政大学校友会顧問
小林清宣
法学部 1975年卒

法政大学校友会
顧問 石塚護
法学部 1968年卒

法政大学校友会北東北ブロック
理事 杉山忠幸
経済学部 1970年卒

法政大学校友会南東北ブロック理事
宮城県校友会
会長 尾町雅文
経済学部 1976年卒

法政大学校友会関越ブロック理事
埼玉県校友会
会長 大井巳喜彦
経済学部 1964年卒

法政大学校友会東京ブロック理事
東京都校友会
会長 山本富士哉
法学部 1963年卒

法政大学校友会南関東ブロック理事
神奈川県校友会
会長 小針久
鎌倉法友会会長
経済学部 1966年卒

法政大学校友会関西ブロック理事
兵庫県校友会
副会長 三上隆
経営学部 1978年卒

法政大学校友会近畿ブロック理事
滋賀県校友会
代表幹事 外池國夫
経営学部 1975年卒

法政大学2号評議員
法政大学校友会中国ブロック
理事 栂野洋司
法学部 1982年卒

法政大学校友会四国ブロック理事
愛媛県校友会
会長 渡辺昜廣
工学部 1975年卒

法政大学校友会北九州ブロック理事
福岡県校友会
会長 中村勇治
法学部 1993年卒

沖縄県校友会幹事長
法政大学校友会南九州ブロック
理事 鈴木洋一
経済学部 1978年卒

法政大学校友会学部同窓会ブロック理事
神奈川県校友会監事
理系同窓会相談役
岡本眞
工学部 1970年卒

法政大学校友会付属校ブロック理事
法政大学高等学校同窓会
会長 髙村嘉昭
経済学部 1970年卒

法政大学校友会職域ブロック理事
一般財団法人 法政大学経営者懇談会
理事長 金子正之
工学部 1964年卒

法政大学校友会職域ブロック理事
法政大学教職員校友会
会長 横内正雄

法政大学校友会スポーツブロック理事
法友野球倶楽部
会長 山中正竹
経済学部 1970年卒

法政大学校友会スポーツブロック理事
法政大学体育会自転車競技部OB・OG会
会長 西島良男
経営学部 1970年卒

法政大学女子・国際高等学校同窓会
会長 中村美津江

法政大学2号評議員
秋田県校友会
会長 北嶋正
文学部 1971年卒

山形県校友会
会長 髙橋順弘
経済学部 1976年卒

法政大学2号評議員
福井県校友会
会長 北川頼子
経営学部 1975年卒

茨城県校友会
会長 木村眞
水戸法友会会長
経済学部 1962年卒

山梨県校友会
会長 樋泉智男
社会学部 1964年卒

岐阜県校友会
会長 井納誠
工学部 1972年卒

三重県校友会
会長 服部喜久男
経済学部 1976年卒

京都府校友会
会長 仲村哲
法学部 1961年卒

奈良県校友会
会長 森章
工学部 1962年卒

和歌山県校友会
会長 大岩德成
経済学部 1987年卒

大阪府校友会
会長 上野隆祥
経営学部 1973年卒

岡山県校友会
会長 西康宏
経営学部 1979年卒

広島県校友会
会長 斎藤周
工学部 1978年卒

熊本県校友会
会長 玉田光識
経営学部 1976年卒

沖縄県校友会
会長 糸数淳
法学部 1983年卒

公認会計士法友会
会長 太田荘一
経済学部 1977年卒

建設・不動産橙法会
会長 柳済龍
経済学部 1975年卒

法政会計人会
会長 髙田住男

法泳会
会長 春木亮一

法政大学交響楽団一九二一年創立
法政大学交響楽団OB・OG会

工体連OB・OG会
会長 土居通明
工学部 1984年卒

文化・フジタオレンジ法友会会長
文化シャッター株式会社
代表取締役会長 潮崎敏彦
経済学部 1970年卒

法政大学中小企業診断士オレンジ会
会長 内藤博
経済学部 1974年卒

謹賀新年

法政大学並びに法政大学校友会の
さらなる発展を祈念いたします。

法政大学学部同窓会

法学部同窓会
会長 金子 征史
http://hosei-hodokai.jp/

文学部同窓会
会長 清原 孟
事務局ＦＡＸ 03－3264－9840

経済学部同窓会
会長 村田 紀敏
http://www.hoseikeiyukai.jp/

理系同窓会
会長 佐藤 良一
http : //133. 25. 196. 100/

社会学部同窓会
会長 中 正美
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/

経営学部同窓会
会長 岩井 昭
http://www.houseikeieidousoukai.com/

通信教育部校友会
会長 米田 俊彦
https://hosei-tk.com/

法政大学
HOSEI University

出身学部の同窓会にも、ぜひ注目とご参加を！

（順不同）

進取の気象

名糖産業㈱ 代表取締役社長 三矢 益夫さん

三矢益夫（みつや・ますお）さん
名糖産業（株）代表取締役社長

1959年愛知県生まれ。1982年法政大学経営学部卒業、同4月名糖産業入社、2011年6月執行役員総務部長、13年6月取締役総務部長、14年6月取締役総務部長兼生産部長、15年4月取締役総務部長兼業務部長、15年6月取締役業務部長兼食品開発部長、18年6月常務取締役業務部長兼食品開発部長、20年4月代表取締役・常務取締役業務部長兼食品開発部長、20年6月代表取締役社長

これからのお菓子は高齢化と災害対応などに需要が

肝油というものを覚えていらっしゃる校友もいるだろう。戦後、栄養補給のために学校で配られていた。年代によって、不味い、うまいの差があるようだが、チョコレートや粉末飲料で著名な名糖産業は、まず栄養補助品の肝油から始まったという。

（聞き手・桑原政昭）

――名糖産業と言えば、アルファベットチョコレートと粉末レモンティーが、まずイメージとして浮かびますが、元々は製薬から始めたそうですね。

第2次世界大戦の終戦直前、1945年2月に、当社の原点となる富士製薬（株）が設立されました。当時は食糧難で栄養不足ということで、肝油をつくるところからスタートしています。これが当社のルーツです。

終戦後、医薬関係は統制があっていろいろ取り扱いが制限されていました。そのため他の事業を模索して、食品事業に手を伸ばしていきました。それがチョコレートであり、キャンディであり、粉末飲料だったのです。

現在、医薬品は最終製品をつくっていませんが、原料を製薬メーカーに納入しています。この事業を化成品事業と呼んでいます。

ちなみに当社で生産している代用血漿デキストランという製品は、日本で生産しているのは当社1社だけです。

現在の名糖産業は、主として食品事業と化成品事業、そして不動産事業の3つで構成されています。

介護施設や被災地にもチョコレートを

――少子高齢化が言われて久しいですが、そんな社会におけるお菓子のあり方は。

お菓子は当然、まず子どもさんがターゲットですが、団塊の世代やさらにその上の高齢者の方々にも、食べていただきたいと考えています。

そのためには、例えば、チョコレート本来の味を損なわないような練り状のチョコをつくりたい、と考えています。練りチョコは嚥下しやすい、つまり高齢者でも飲み込みやすいものですね。

こういった製品は、介護施設や病院には欠かせないと思います。

また、この頃は地球温暖化のせいか、災害が多く、被災された方のための非常食や保存食が注目されています。

この中には必要不可欠な主食ばかりでなく、味わってほっとするような嗜好品も、取りそろえるべきではないのでしょうか。

残念ながら、既存のチョコレートは熱に弱く長期保存ができません。課題は原料の油脂と包装材料にあります。これをクリアするのはなかなかむずかしく、技術的にもハイレベルですが、保存性があっておいしさを担保できるような製品、なおかつ食べやすい非常食、保存食としてのチョコレートができないかと、現在開発中です。

述べましたように、これからのお菓子は、高齢化と災害対応などに需要があるのでは、と考えています。

――お菓子屋さんのメーカーは、地方を拠点としている企業が多いですね。

地方は製品の原料が調達しやすい、という利点があるのかもしれませんね。

一方では、首都圏の流行などにも目を配らねばなりません。東京には研究員も含めて、展示会などに代わる代わる出かけて行って、常にアンテナを、張っています。

また名古屋は、東京と大阪の真ん中にあって柔軟性があるのかな、とも思います。

新幹線で、どちらにもそんなに時間もかかりませんし、リニアモーターカーもいずれ通るでしょう。

そうすると今よりも、もっと便利になります。東京と大阪という大消費地のどちらからも、いろんな情報が取りやすいのではないでしょうか。

名古屋は適度に都会で適度に田舎なので、暮らしやすさも社員にとっては魅力だと思います。

――そういった暮らしやすい地元を離れて、東京の法政大学に進学したのは、どうしてですか。

名古屋で生まれ育ちましたが、大学は東京しか受験しませんでした。一度は親元を離れて、世間を見てみようと考えていたのです。

でも、私は長男で本家の血筋ですから、卒業したら地元に戻ってくるつもりでした。

ですから、入社試験は名古屋に本社を置く会社しか受けませんでした。

就職の志望先は基本的にメーカーでした。トヨタさんがそうですが、名古屋は物づくりの土地柄です。商社や金融などは考えていませんでした。

その中で名糖産業は、規模が小さいながら、自己資金比率も高く、無借金経営の東証一部上場企業だったので入社しました。

大学では商学研究会に所属した

――どんな学生時代を過ごされましたか。

大学では学術団体の商学研究会に属していました。構成としては公認会計士養成、税理士養生、専門的に会計を学ぶという3つのグループに分かれていました。1学年30人から40人で、4学年で100人以上いたと思います。

毎年、公認会計士や税理士を、何名か輩出していました。

この団体には、先輩が後輩を教えるという伝統がありました。上下関係が厳しかったですが、仲が良く、今でも集まりがあります。

コロナ禍になる前は、1年か2年に1回ぐらい同級生や近い先輩後輩たちと懇親していました。

私が社長に就任したときも、みなさんに喜んでもらいましたが、コロナ禍でなかなか、大きな懇親会が開けないので残念です。

母校の飯田橋のキャンパスには、10年前くらいですか、久しぶりに訪問したとき、きれいになっていてびっくりしました。

女子大学生も増えましたね。私たちのころからは、考えられないくらいの差があります。

校友として初めて総理大臣になった菅さんのご活躍も、大変うれしい限りです。任期が少し短かったでしたが、いろいろよいお仕事をなさったと思います。

また田中前総長も、はじめての女性総長として、よくマスコミに登場してご発言なさっていましたのが、印象に残っています。

――最後に後輩に一言お願いします。

コロナ禍で、学校でも社会でも結びつきをつくるのが非常に難しくなっています。

しかし、財産はやはり仲間ですね。

私の経験談で恐縮ですが、大学にいるうちに商学研究会で仲間のつくり方を覚えました。それで就職しても会社内外で仲間をたくさんつくることができた。それが現在の自分を形成しています。

仲間をたくさんつくること、それが自分を助けてくれます。

コロナ禍で大変でしょうが、若い時代だからこそ、携帯ばかりを見ずに、友だちをつくってください。

卒業して、利害が関係なく気の置けない友だちと集うのはいいものですよ。

カレイドスコープ

校友会HP オレンジMAP 掲載店

自主マスから出版社へ。50代で飲食店経営に転身

家庭料理とお酒の店「旬菜ままや」

中尾 京子（旧姓今村）'91年文学部卒

「夢なんて叶えるんじゃなかった！」と何度後悔したことか。富士見ヶ丘駅前で「旬菜ままや」を始めたのは約1年前。大量調理や原価計算などすべてが不慣れで寝る間もないほどでした。

29年勤めた光文社を退社して未経験の飲食業にチャレンジしたのは料理が好きで、笑顔で食事する人を見るのが大好きだから。地元に目を向けると、渋谷まで20分の立地に農家が点在し、朝採れ野菜が豊富なことに気づきました。この「都会の里山」の魅力を人に伝えたいという編集者魂と、小料理屋を開きたいという20年来の夢が合致。地元野菜を発信するプラットフォームとして立ち上げたのがこの店です。

2カ月ほどして仕事に慣れてきたころ、お得意様にも恵まれるようになりました。

店が笑顔に溢れているとき、心の底から嬉しくなります。

去年の9月には自主マスコミ講座の同期が大勢来てくれ、旧交を温めました。

ちなみに店名は自主マスの課題でエッセイを朗読して以来ファンになった向田邦子さんにあやかりました。

学生時代の経験が今につながっていることに、不思議な縁を感じています。

ラグビー部出身の料理長が織り成す創作料理

東京日本橋「あをによし」

永岡 三喜男'95年経済学部卒

東京日本橋の地下鉄三越前駅から徒歩2分に佇む古民家を改装した和食・創作料理店「あをによし」。

店主の料理長、永岡さんは、法政大学ラグビー全盛時代に多摩キャンパスで楕円球を追いかけ日本一を経験した体育会出身です。子どものころからの釣り好きが高じて、卒業後は実業団から誘いもありながらすぐにフグの調理師免許を取得するなど和食の道に進み、これまで法政の卒業生をはじめ多くの食通の舌を唸らせてきました。ラグビー部時代の練習は想像を絶する厳しさでしたが、今振り返ると楽しい思い出しかなく、そこで得た体力・忍耐力・ネットワークは今の仕事に大きく役立っているそうです。

「あをによし」では奈良県産の旬の食材を季節に応じた絶品料理に仕立て上げます。やまと鴨や旬の野菜などを使った料理はどれも永岡さんのこだわりが詰まった逸品となっていて、清酒発祥の地である奈良県のお酒との相性も抜群です。ビジネスはもとより家族連れ・友人同士など気兼ねなく入れるお店ですので、日本橋での買い物や散策とあわせて足を運んでみてください。詳しくは校友会HP「法政オレンジMAP」に掲載。

特集

教育界で活躍する卒業生

にしおか のりひろ
西岡 憲廣さん

1940年北海道生まれ。63年法学部卒業後、札幌香蘭女子学園高等学校（現札幌山の手高等学校）に奉職。1987年西岡学園理事長。2000年札幌山の手高等学校長に就任。北海道私立中学高校協会会長などの要職に就く。
校友会理事。

心身ともに健康な身体を持つ良き社会人として、国家・社会に貢献する有為な人間を育てる

法学部の教授陣に魅力を感じ転部

―本日は、よろしくお願いいたします。

初めに、西岡先輩はどのようなきっかけで法政大学に進学することを決めたのですか？

西岡 高校の担任から法政はどうかと勧められ、で、そのまま決まっちゃったんですよ。東京の大学に行きたいと思ってもいましたし。

英語が好きだったので文学部英文科に入ったのですが、2年間勉強して、法律の勉強をしたいという気持ちに変わったので、法学部に転部しました。当時、法学部には伊達判決の伊達秋雄先生や、国際法の安井郁（かおる）先生など有名な方々がおられたので講義を受けたいという思いもありました。

安井郁先生の講義は、大きな講堂（511番教室）でやってまして、早稲田、東大など他大学の学生も聴きに来てました。その学生とも友達になったりして結構面白かったですよ。

実は、卒業する時にはアメリカに留学か大学院に進むか迷いました。しかし、家から戻って来いという事で一度は札幌に戻ってきました。

―法律の勉強も留学の夢も絶たれたのですか？

西岡 いや、卒業した年にアメリカ冒険旅行に行きました。泊るところなど予約せず、アメリカ大陸を横断する周遊券を買って、バスで移動しました。泊る所はYMCAもない街もあってそういうところでは、簡易宿泊所のようなところにも泊まりました。

―そういうところに泊まるのは勇気がいりますよね。

西岡 そう、勇気いりますよ。後から考えるとぞっとすることもありますが、若いときはそんなの何も考えない。へっちゃらなんですね。

サンフランシスコから北のポートランドに行き、そこから東に向かいシカゴ、ボストン、ワシントンDC、ニューヨーク、そこから折り返してダラス、ロサンゼルスと回りました。そして、留学して法律の勉強もしたいと思って、ロサンゼルスのカレッジで、面接を受けました。結果、入学許可証が出たのですが、祖父母が創立した学校の仕事をしなければならず、残念ながら断念しました。

―そうすると、アメリカから帰国されて学校の仕事に就かれたのですね。

西岡 そうです。最初は、先生ではなく事務系の仕事に就きました。

スポーツを通して人格を陶冶する

―私は、スポーツが好きなのですが、高校も含めて、学生スポーツに求められることはどのようなことがあるのでしょうか。

西岡 スポーツを通じて人間力を養う。それが基本的な考えです。

本校は、創立時は女子高だったのですが、私が理事長になって男女共学に変えました。女子バスケットボールはずっと強く、全国レベルでも活躍していました。男女共学にして、ラグビーに力を入れました。知り合いを通じてニュージーランドのクライストチャーチにある、セントビーズ・カレッジを紹介してもらい、そこをメインにして現地の高校と試合をしています。

その後、姉妹校を作り提携を始め、そこで、リーチ・マイケルが、ぜひ日本で活躍したいということで留学生として受け入れました。

それから、毎年留学生を受け入れ、こちらからも半年間ラグビー留学生を送っています。コロナの影響で、3年間途絶えているが23年から復活しようと思っています。

大学生でも、卒業して社会人になって、競技を続けて実業団で活躍する人、競技は引退して会社で活躍する人もいます。

スポーツで協調性、忍耐力、前向きに取り組んでいく姿勢などが養われていく。将来活躍できる人材育成に繋がっていくと思います。

―レギュラーでない選手の方が、今言われたスポーツによって得られることが多いのではとも思いますが、いかがでしょうか。

西岡 レギュラーでなくとも、たとえ全国大会に行けなくても一生懸命やっていく。その間に協調性や忍耐力が養われていきますので、それが良い進路にもつながっています。

―最後に、母校 法政大学に期待することは何でしょうか。

西岡 教育内容もいろいろ開発してやっているので、これをどんどん続けて欲しいなと思います。様々な分野で活躍できる人材育成、これから時代もどんどん変わっていきますから、そういう面で即応できる人材育成に是非とも取り組んでいただきたいと思います。

（広報部会員 大住達郎）

はえの みつる
波江野 充さん

1963年京都府生まれ
1986年社会学部応用経済学科卒業
(1987年～)川崎市立商業高校
(2017年～)川崎市立川崎総合科学高校定時制
商業科教諭
世界松濤館空手道連盟・技術本部(師範会)

空手道で国際交流・奉仕活動

青年日本の代表者を育てる

学生時代は空手部に所属。よく大先輩が、法政大学武道学部空手学科卒業なんて自虐的に言ってましたが、私もその通りの学生生活を送っていました。学内施設でよく利用したのは学食と体育館で、夜には街に繰り出し「社会学」を広く浅く学びました。平時は自主休講を決め込むも、試験前には最前列で受講、（空手の勝負同様の）集中力を発揮し、試験一発で単位を取得しました。

こんな模範生（笑）な私でしたが、選んだ進路は教師の道でした。採用以来、毎日が『金八先生』（深夜生徒捜索）、『スクール☆ウォーズ』（熱血空手部編）、『GTO』（自称反町似）といったドラマとオーバーラップするような生活を送っています。

私の教え方は「小さな成功体験を自信に繋げる」ことが狙いです。そんな中から、世界で活躍する教え子、「青年日本の代表者」を育てたいと思っています。

多彩な教育活動を実践

そんな私が取り組んでいることを以下に紹介します。

・教科指導 商業科「ビジネスマナー講座」では、グループワークを中心にプレゼン力やコミュニケーション力を育成しています。〝新人社員は電話対応が苦手〟と聞いて、同講座ではビジネス電話検定を教材にしています。珍しい検定なので就活では面接官の興味を引きます。検定協会より文部科学大臣賞（2度）を受賞。

・奉仕活動 毎年、指導している空手部は老人ホームへ慰問演武。発表の機会は部員達に自信を与えてくれます。警察署から表彰されました。

社会福祉部の活動で、ネパールの小学校に中古運動用具を贈ったら子供達が楽しく遊ぶ動画が感謝状と共に届きました。

コロナ禍で休校の時期、学校長に「保健所に応援に行きたい」と嘆願しましたが、これは叶いませんでした。登校再開となり、「医療関係者への応援・感謝の校舎ライトアップ作戦」を敢行しました。その後、募金活動（熊本豪雨・土石流被害）にも取り組みました。

・国際交流 北米や中南米、西アジアへ派遣されましたが、一番の思い出は、近所の健康ランドで出会ったスリランカ人の招待で彼の国を訪問したことです。食事は毎回カレー、空手セミナーでは参加者の熱意に圧倒されました。気分はまさに世界ふしぎ&ウルルンな体験記でした。

勤務校には、英語圏（英米豪）のみならず、中東・南アジア・アフリカ・南欧等の空手家が訪れ、部員達と親交を深めました。会話は「押忍」のみで通しました（笑）。

国内ではマイナーな空手ですが、海外には熱心な愛好家が大勢います。もっともっとスポーツや文化活動を通して子供達に国際交流を経験させたいです。

・部活動 空手部は県代表40回、全国5位にもなりました。でも勝ち負けより目標に向けて生徒達と夢中に稽古に取り組んだことが一番大切なことと思っています。卒業生は家族同然です。「子どもが空手を習い始めました（ついでに親も稽古再開）」、なんという知らせはとても嬉しいことです。昨年、大会で教え子と対戦しました（はい、負けました）。

いま、部活はブラックと騒がれていますが、活動を通して子供達の成長を見守ることは教師として至福の喜びです。

楽しい事や嬉しい事も多い反面、悲しい場面に立ち会ったり、腹立たしいことも一杯あり、今はその全てが大切な思い出となっています。

喜怒哀楽の振れ幅は、人生において最も多感な年代の生徒たちが相手ということで他の職業よりも大きいかと思います。

本当にやりがいのある職業に就けて幸せです。

教師の労働環境を改善する必要はありますが、国が進める部活動改革には違和感を覚えます。部活を地域へ移行すれば、学校から活気や生徒相互の繋がりが希薄になってしまいます。学校が、そこで学ぶ彼らにとって「人生の活路を見いだし、日本を代表する青年になる」ための場所であるために、私もまだまだ頑張ります。

わが情熱はオレンジの血と共に

いしづや はるのり
石津谷 治法さん

1981年 法政大学文学部史学科卒業
現在は、千葉県習志野市立習志野高等学校で吹奏楽部顧問を務める傍ら、一般社団法人 全日本吹奏楽連盟で理事長を務める

母校を卒業し、早40年以上が過ぎ去りました。「将来は絶対に中学校の教師になり、吹奏楽部顧問として全国大会に出てみたい」などと、実現不可能と思っていた、はかない夢を抱きつつ、高校は大学進学に有利な法政二高を迷わず受験。入学後はこれも迷わず吹奏楽部の門をたたきました。

入部当時、法政二高は男子校。吹奏楽部は40人にも満たない規模でしたが、男だけのキリッと引き締まった空気が実に新鮮でした。

二高における吹奏楽部の練習は、中学時代のゆるい（？）練習から見れば厳しい、厳しい。でも、その経験が将来の教員生活に実に役立つこととなりました。厳しいことは決して悪いことではありません。それを乗り越える力をつけることが大切であると私は信じているし、現在でも教え子たちにそう伝え続けています。

二高の卒業も迫り、付属校生徒であるわれわれは、進学先の学部を決定しなければなりません。私自身は歴史が大好きだったので、史学科を熱望していたのですが、父は文学部への進学に難色を示していました。「男が文学部を出て将来何になるつもりだ」。今ではこんな考え方は全く時代遅れですが、私は「社会の教師になって吹奏楽の全国大会に出るんだ！」と強弁し、父を押し切ったことは決断として間違っていなかったと思います。後になって実際に全国大会に出場した時、父が一番喜んでくれたことがそれを証明していると思います。自分のやりたいことに突き進むことが大切と、教え子たちに言い続けることができているのもこのおかげかな。

さて、無事に文学部史学科に入学し、初めて飯田橋の本校に足を踏み入れ、迷わず向かった先は、交響楽団の新入生勧誘出店。自分は偉大な作曲家たちが後世に残してくれた名曲を、オーケストラで演奏したいという願望に満ち溢れていました。交響楽団での4年間は、自分の音楽人生を決定づけたと思っています。音楽に対する視野も広がり、名曲を仲間たちと作り上げる喜びが、体中に感動となって降り注いだからです。

法政でのこの素晴らしい経験を引っ提げて無事に教師になることができ、希望通り吹奏楽部の顧問になることもできました。千葉県にある習志野四中、五中、習志野高校と渡り歩き、全国大会には何度も出場。人間誹めず自分の夢を追い求めることはとても重要だと思います。

さて、私は現在、全日本吹奏楽連盟の理事長も務めています。加盟団体数約1万4000を数える、世界でも有数の音楽団体です。しかし、吹奏楽を取り巻く環境はかなり厳しい状況にあります。少子化、コロナ禍による楽器人口の減少、部活動の地域移行によるさまざまな問題、等々。もし、このまま音楽系部活動が衰退していけば、それは日本全体の音楽文化が衰退していくことになります。この流れを食い止め、子供たちの夢をかなえられるよう、そして将来の日本の音楽界が世界からも注目されるよう、理事長としての責務を果たしていきます。

私の血はオレンジ色に染まっています。

そして、そのオレンジが自分自身の情熱を支えているんだと。法政での素晴らしい体験こそが、今の自分の原動力であると自負しています。

卒業生の皆さまへ!

法政大学のリカレント教育・生涯学習

「リカレント教育」って何?

リカレント教育とは「社会人の学び直し」のことを指します。就職してからも、生涯にわたって教育と他の諸活動(仕事、余暇など)を交互に行うという概念であると言われています。

「人生100年時代」は、教育、雇用、退職後という、これまでの伝統的な三つのステージの人生モデルをマルチなステージのモデルに変えつつあります。

今回は、法政大学のリカレント教育の①公開講座②履修証明プログラム③通信教育部についてご紹介いたします。

もういちど法政で学びませんか?

社会人こそ学びの必要性と重要性は日に日に増していきます。コロナ禍以降、ますます混沌とする社会情勢、経済環境、自分の身は自分で守らなくてはいけない時代になりました。知識は武器です。沢山の知恵は最大の防御です。法政大学では多くの社会人のためのリカレント教育・生涯学習を用意して校友の皆さんをお待ちしています。

①公開講座

教育・研究の成果を広く社会に紹介し、公開していくことを目指してリカレント教育オフィス主催の公開講座やセミナー等を開催しています。

2022年度 公開講座 ▶動画配信中
「基本がわかれば怖くない・後悔しない−不動産のこと−
売買、相続(対策)、有効活用、投資　知っておいたほうがよいこと」

・法政大学不動産鑑定士橙法会によるあらゆる不動産課題解決に役立つ基礎知識、相続・売買・投資・CRE戦略などについて、実践重視で講義します。テーマごとに3回連続で学ぶことができる講座です。不動産鑑定士という資格そのものにも興味がある、という人にも聴いて頂きたい講座です。それぞれ違った分野の実績を持つ、全員、法政大学出身の不動産鑑定士4名が、実体験も交えて講義をします。

2021年度 公開講座 ▶動画配信中
「混沌の時代の社会人学び直し−自分を守る武器を身につける−」

・法政大学リカレント教育オフィス長講演　「ビジネスパーソンの学び直し」
・トークセッション、働きながら法政大学で学び直しを経験された方をお招きし、仕事と両立する方法、学び直しによって得たものやスキルアップにつながったことなどをお聞きしました。

②履修証明プログラム※

学部・大学院で開講されている科目群を基盤に、多様な履修証明プログラムを提供しています。※修了者に対して、法に基づく履修証明書(certificate)を交付する制度です。

・「健康とスポーツ」履修証明プログラム

「健康とスポーツ」は、人生100年といわれる時代をむかえ、国民全体における健康意識の高まり、東京2020大会をきっかけとしたスポーツへの興味関心に応えることを目的として2019年4月に開始した履修証明プログラムです。

・大学院公共政策研究科 SDGs Plus 履修証明プログラム

SDGsの基礎から関連テーマを幅広く学び、実務に活かせるプログラムです。

・大学院イノベーション・マネジメント研究科　ヘルスケア・マネジメント講座 履修証明プログラム

ヘルスケア・マネジメントに興味があるビジネスパーソン。医師、看護師、保健師、薬剤師等の医療従事者、介護従事者、病院や介護施設の経営に携わる方、または将来これらの業界で働くことに興味がある方を対象としています。

・大学院情報科学研究科　情報科学・データサイエンス・AI履修証明プログラム

2022年9月より、情報科学技術の発展に資する情報科学・データサイエンス・AIに特化した履修証明プログラムを開講します。このプログラムを通して、新たな社会を創造していくために必要な力を身に付けることができます。

③通信教育部

・メディアスクーリング(インターネットを利用したスクーリング)

仕事を持つ社会人学生、生涯学習を目的とした学生、20歳前後の学士資格取得を目的とした学生など、多様な年齢層・職業・背景をもった人々が在学しています。ここでは多くの学生が知識を知性として磨き、それを仕事や生活に活かしたり、あるいは普段の社会経験を学びに応用したりと、リカレント教育という言葉に代表される、実社会と連携した学びが息づいています。

☞ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/media.html

【リカレント教育・生涯学習のプログラムと制度】

リカレント教育・生涯学習の具体的なプログラムや制度について、詳しくはウェブサイトをご覧ください。

☞ https://www.hosei.ac.jp/recurrent/program-seido/

法政大学「学生が選ぶベストティーチャー賞」

20年度、21年度連続受賞

経営学部 川島 健司 教授

プロフィール
77年横浜市生まれ、法政大学第二高等学校、法政大学経営学部卒、一橋大学大学院商学研究科05年商学博士(後期修了)。07年4月より法政大学経営学部専任講師、14年より教授。2014年法政大学高度会計人材育成センター初代センター長就任。専門は会計学、財務諸表分析、インベスター・リレーションズ。『起業ストーリーで学ぶ会計』(中央経済社)を21年に発刊。
趣味:ソムリエ資格を有するワイン研究、珈琲焙煎、こけし鑑賞。

生粋の法政人

父親が旅行業で小さい頃から旅行に連れて行ってもらった。中学生の時、航空会社が主催する「21世紀空の旅」というテーマの作文コンクールで3,000以上の応募の中から最優秀賞に選ばれた。それがきっかけとなり航空業界に興味を持ったが、大学1年の時に神谷健司ゼミを聴講させていただき会計学を学び、気づいたら航空業界ではなく会計学の道へ進むことになった。

学生時代は英語とテニスサークルを掛け持ちし、シェイクスピアの英語劇に夢中になっていた時代もあった。もちろんその一つひとつが貴重な経験で、素晴らしい友人たちとも巡り合えた。

15年4月〜17年3月、カリフォルニア大学バークレー校日本研究センター客員研究員としてカリフォルニア州バークレー市で暮らす。ここはIT及びコンピュータ産業の中心であるシリコンバレーにも近く、学術研究と共にソムリエ(ワインエキスパート)としてのワインの道を究める絶好の地であった。カリフォルニアワインの生産地、広大なブドウ畑と数多くの有名ワイナリーがひしめいていることでも知られる「Napa Valley」の近くでもある。

カリフォルニア大学バークレー校は州立大学で、ハーバードなど東部の名門私立大学の集まりである「アイビーリーグ」に対して名門公立大学「パブリック・アイビー」と呼ばれる代表校である。アメリカの公立大学ランキングでは長年トップを維持している。

22年8月から1ヶ月、家族と共にバークレーを訪ね、物価高と円安をまともに体験した。何とラーメン一杯が20ドル、さらに税金が9%、チップが20%加わる。テイクアウトの店でもコロナ禍で出勤してくれている店員に対する感謝の気持ちでチップを渡す。

公認会計士や弓道部の指導で輝かしい成果を上げる

19年度公認会計士試験当初出願数は12,532人、合格者1,337人、合格率10・7%の難関試験。法政大学関係の公認会計士合格者は2017年度16名、2018年度21名、2019年度は4名、一橋大学と肩を並べて全国第9位となる。2020年度42名で京都大学に続き全国第9位と右肩上がりの合格者になっている。

学生個々のモチベーションが上がっているのは一番であるが、現センター長の筒井知彦経営学部教授および関係者の指導に拠るところも大きい。さらには公認会計士を目指す後輩たちにとって大変心強い「公認会計士法友会、太田荘一会長」たち、先輩公認会計士のバックアップが大きな力となっていることは言うまでもない。また、法政大学校友会理事、和食克雄顧問から段ボール箱12箱分もの貴重な資料が贈呈されて、全学を挙げての重層的な支援が結果に繋がっていることをひしひしと感じている。

また、18年より弓道部部長に就任して、大学弓道王座決定戦で前人未到の3年連続優勝を果たした。弓道部の高校生にとって、法政大学弓道部は垂涎の的である。その弓道部は今年創部百周年を迎えた。

ウィズコロナ時代はミックス授業が有効

20年、22年と大学がオンライン授業に特化せざるを得なかった。オンラインにはオンラインとしての長所もある。学生が授業に集中でき、何度でもビデオを見直して学べるという利点がある。しかし反面、対面授業の様に隣にクラスメイトがいないので自分の立ち位置が分からず、焦りと不安を感じるらしい。

22年度から対面授業が再開されたのを機会に1週間ごとに対面とオンライン授業を組み合わせている。対面の時にも教員からの一方通行授業ではなく、半分を学生たちに発言させて双方向での授業を組み立てている、オンラインの時には授業終了後学生たちが授業内容についての意見を提出させる、そしてそれに対してすぐにコメントを返す。これによって学生たちの自主性が高まり授業効率がぐんと増した。

『起業ストーリーで学ぶ会計』を21年に発刊して、授業教材として活用している。東証プレミアム上場の株式会社アイスタイルの全面協力のもと、日本最大のコスメ・美容の総合サイトを運営する同社が創業から株式公開を経て現在へと至る20年間の軌跡を記述している。

そのリアルなストーリーを素材に会計学や財務分析法を教える。

(取材、写真　広報委員　石毛利雄)

83回目の箱根路に挑戦 スポーツ法政部員の眼

法学部3年 川口 綜一朗

■戦評

混戦が見込まれた前回（2022年）大会。10区の川上（4年）が前を走る東海大を捉えたのは、ゴール前わずか1キロ地点。逆転の末につかんだ3年ぶりのシード権。史上空前の接戦の中、最後まで諦めない走りが生んだドラマだった。真価が問われる今回、その実力を証明すべく、法大陸上競技部が83回目の箱根路に挑戦する。

歓喜からの再出発。その旅路は早々に険しいものとなった。5月に開催された関東学生陸上競技対抗選手権（関東インカレ）では、松永（3年）と稲毛（3年）が入賞を果たすも、主将の内田（4年）は故障で出場できず。さらに6月の全日本大学駅伝予選会（全日本予選会）では、14位とまさかの敗退。3年ぶりの三大駅伝全ての出場はかなわなかった。他大学と互角に戦えることを示した一方、故障やコロナ禍など、アクシデントへの対応に苦慮するシーズン前半を過ごした。

昨年と異なるスケジュールを歩むも、全体の流れを変えることはなかった。全日本予選会敗退に一時はぼうぜんとした選手たちも、夏の合宿では例年通りの練習内容で距離を踏み、経験を積んだ。その結果、前回6区で好成績を残した武田（2年）を筆頭に、多くの選手がハーフマラソン級の長距離で戦える力を得て、秋への準備を整えた。

坪田監督体制として今年で11年目。箱根では3年連続で入賞するなど一時は強さを見せるも、ここ数年は予選会からの参加が続いた。成績が伸び悩む中でも貪欲に前を目指し、一つでも上位を狙う決意だ。そのためには「全区間ミスなくつなぐ」と監督。鎌田・清家（令3年度卒）といった先陣を切り貢献するタイプの選手に代わり、チーム全体で戦う意識の強い集団を作り上げてきた。

目標は高く「総合5位」。前回5位・東京国際大学と法大のタイム差はわずかに3分半。今回も各大学の戦力は拮抗（きっこう）すると予想されるが、序盤から安定したレース運びを見せられれば、目標達成は射程圏内だ。これまで努力を重ね走力を積み上げてきた上級生と、夏に成長を見せた下級生で構成された10人の総合力で混戦から抜け出し、再びのオレンジ旋風を正月の箱根に吹かせる。

左から中園慎太郎、内田隼太、扇育

■監督・選手インタビュー（昨年9月27日に実施）

坪田智夫監督

坪田智夫 駅伝監督

―今年のチームの雰囲気は。

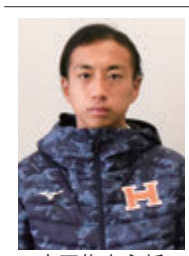
「昨年は鎌田が走りで引っ張り、清家がキャプテンシーを発揮するなど4年生がチームを引っ張ることが多かった。今年はそこの力が少し弱い分、全体でまとまるという意識が強く、チーム全体で（互いを）引っ張っている印象があります」

―重要となる区間は。

「全ての区間が重要。1区間のミスでシードからこぼれ落ちることもあるので、ミスなくつなぐことが一番重要だと思います」

―活躍を期待する卒業生に向けてメッセージを。

「最近はコロナ禍の関係で現地での応援はできませんでしたが、応援のメッセージやご支援をいただき、選手たちの力になっています。皆さまに頑張っているなと思っていただけるような走りができるように、最後まであきらめず2日間戦いたいと思います」


内田隼太主将

内田隼太 選手（主将）（4年／経済学部）

―チームとしての手応えは。

「個々の力は確実に全員が付いている。前回の箱根駅伝も、目標順位である5位の東京国際大とはそこまでの大差はなかったので、当日走る10人が調整して力を合わせてくれれば戦える準備はできていると思います」

―前回と違って予選会はないですね。

「予選会がない分、3カ月かけて箱根に合わせていける。だが20キロ以上の距離はどこかで走っておかないといけないので、（箱根前に）大きい試合に合わせることが必要だと思う。どこの試合に合わせるか、どのような練習計画を組まないといけないのかを考えることは、昨年と違う部分。そういった部分は僕も注意しながら選手たちに伝えるようにはしています」

中園慎太郎選手

中園慎太朗 選手（副主将）（4年／社会学部）

―箱根での希望区間は。

「1区か2区を走りたいが、どの区間でも柔軟に対応して安定した走りをしたい。2、3年生に勢いがあるので、伸び伸びと後輩たちが走れるようにサポートできればと思います」

―最後の駅伝への思いは。

「主将としても選手としても総合5位に貢献できるように、残り3カ月間でやっていけたらと思います」

―箱根では全て復路で出場し、前回は10位争いを経験しました。

「前回はシード権争いで、15キロぐらい並走する形だった。他の選手たちの頑張りが力になって自分の走りができたのは良かったが、最後の最後で離されてしまい後続に迷惑をかけてしまった。そこを課題として今年はやってやるんだぞという気持ちで今やっています」

―前回の10位という結果を振り返って。

「逆転でシード権を取れて盛り上がったが、自分たちの実力で走ったらそうはいかなかった部分もあり、この結果に満足すると『総合5位』の目標を間違いなく達成できない。前回の5位との3分半の差は、突き詰めていけば今回はひっくり返せる。一つ上のレベルに行けるという期待感もあります」

―4年間で自身にあった変化は。

「身体面では練習のレベルが上がるのを感じた。気持ちの面では食事に対するこだわりやケアの質をどう高めていくかということや、ルールがコロナ禍で増えて、自分たちが縛られている状況でどのように強くなっていくかということを考えるようになりました」

―箱根への意気込みを。

「チーム目標を達成する上で、中間層の引き上げが鍵になると思う。残りの期間はそこを意識して、副主将としても声掛けをしたい。個人としては、どの区間で走っても5位以内で走れるように頑張りたいです」

22年出雲駅伝 最高成績タイ（7位）の好成績

島根県校友会出雲支部
07年法学部卒 手銭 隆之

令和4年10月10日、今年も駅伝シーズンの開幕を告げる第34回出雲駅伝（出雲全日本大学選抜駅伝競走）が開催されました。

平成の元号と共にスタートした本大会は選抜大会であり、関東の大学については箱根駅伝シード権獲得校が出場できることとなっています。第98回箱根駅伝で見事シード権を獲得した母校法政大学は3年ぶり15回目の出場となりました。

大会2日前。のぼり旗設置解禁日となるこの日は、各大学関係者が早朝からコース沿道にのぼり旗を設置してまわります。私たちも島根県校友会出雲支部の会員を中心に、コース沿道約10箇所に100本以上ののぼり旗を設置してまわりました。

大会史上2番目に強風が吹き荒れる中迎えた大会当日。スタート地点付近の応援場所には、スタート約2時間前から人が集まり始め、県内はもとより鳥取や広島、東京本部など全国各地から応援に駆け付けて頂いた方々約30名が集結し、応援を行いました。また、第1中継所にも応援部隊を配置し、出雲路を駆け抜ける選手たちに声援を届けました。

過去3大会は、本学から応援団もお呼びして盛大に応援を行っておりましたが、今年はまだコロナ禍ということもあり自粛して、少し寂しい応援となりました。しかし、それでも私たちの応援が選手たちに届いたのか、出雲駅伝最高成績タイとなる7位でゴールし、見事入賞という結果を残してくれました。

例年であれば、レース終了後の夕刻から、各大学選手や応援団関係者ら1000人以上が一堂に会して、出雲駅伝恒例「さよならパーティー」という名の大懇親会が行われます。こちらもコロナ禍で残念ながら中止となってしまいましたが、大学同士の交流の場として他に類を見ない素晴らしい懇親会ですので、早く通常開催できることを願ってやみません。

今年の出雲駅伝では7位入賞と健闘を見せてくれた選手たち。第99回箱根駅伝でもシード権を獲得し、また出雲の地に帰って来てくれることを期待しますと共に、今後の母校の益々のご発展をご祈念申し上げます。

久々に幟、垂れ幕で応援！

選手である前に学生であれ

体育会卓球部コーチ
11年法学部法律学科卒 大谷 泰平

体育会卓球部は1938年に創部され、伝統ある運動部として、現在18名の部員で活動している。この間、全日本チャンピオンや関東学生リーグ戦1部優勝などの実績を残し、多くの名選手を輩出してきた。近年でも毎年のように実業団選手を輩出している。

当部では卓球を通じて人間形成・人格形成に重きをおいている。部員の自主・自立性を尊重し、監督やコーチの指導のもと、各部員がそれぞれ工夫を凝らして日々練習に励んでいる。

競技スポーツは「勝つ」ことに重要な意味や価値があるが、他方で学業との両立も学生の本分であるため、当部では「選手である前に学生であれ」をモットーに勉学でも十分な配慮がなされている。21年度は卓球部に所属しながら勉学に励み、在学中に公認会計士試験に合格した部員もいた。

コロナ禍においては、卓球も他の競技と同じく、数多くの大会で中止や制限が設けられた。卓球は室内で行う競技性から、現在も多くの大会で無観客状態が続いているが、一方でオンラインでの観戦体制も急激に進んできている。

現在、関東や全国規模の大会では、全ての卓球台にカメラが設置され、だれでもライブで観戦することができる。ぜひ体育会卓球部の活動をオンライン観戦していただき、画面越しからご声援をお願いしたい。

関東学生卓球1部リーグで活躍中！

法政大学
体育会卓球部
公式Twitter

関東学生卓球連盟
ホームページ
大会情報やライブ
配信はこちらから

第28回法政大学全国卒業生の集い「栃木大会」

―関係者の熱い思いで3年ぶりの開催に辿り着く―

応援団のデモンストレーション

11月4日（金）から6日（日）の3日間にわたり、第28回法政大学全国卒業生の集い「栃木大会」が盛大に開催された。コロナ禍に翻弄された栃木大会であったが、関係者の不退転の決意が全国の校友の心をうごかし、全国各地から延べ530人の卒業生が集まった。

4日の記念ゴルフ大会は那須ゴルフ倶楽部で開催した。名匠井上誠一氏設計による、昭和11年に開業した紅葉の見事な那須岳麓にある名門ゴルフ場で、約70人が参加し、関電工の及川佳久氏が優勝した。

5日は「式典・記念講演・特別公演・懇親会」が、ホテル東日本宇都宮で開催された。

全国から約460人の卒業生が参集し、栃木県日光の伝統芸能、文化に触れながら全国校友が旧交を温め合った。

式典は大山清栃木県校友会副会長の開会の挨拶から始まり、主催者の竹中宣雄校友会会長や来賓の方々の挨拶が続いた。

記念講演はパン・アキモト社長 秋元義彦氏（栃木県校友会副会長）による「世界を救う・みどりの救缶鳥」。

秋元義彦氏は、1976年経営学部卒業ののち、世界を修行して歩き、家業のパン屋（現㈱パン・アキモト）を継いだ。阪神淡路大震災の際の食糧支援をきっかけに、軟らかさと美味しさを保ち、長期保存が可能な『PANCAN』（パンの缶詰）を開発し、「安藤百福賞」を受賞している。

災害備蓄食として普及させ、賞味期限前に回収して世界の貧困地域・被災地への食料支援をし、循環システムを構築した。東日本大震災を始めとする災害被災者、コロナ禍の医療関係者、またウクライナ避難民への食料支援など、社会貢献にも積極的に取り組んでいる。まさにSDGs時代の先端を行く傑物である。学生時代はESS活動にも積極的に参加していた。

続いて、日光東照宮による流鏑馬射手の演武が披露された。会場に設置された3枚の的を、射手全員が的中する迫力のある演武に会場は大いに盛り上がった。演武では稲葉久雄日光東照宮宮司に解説いただいた。

その後、古河電工日光事業所舞楽部による日光和楽踊りが披露され、荒井重男代表による指導のもと、栃木県を代表する民謡を会場一体となって踊った。

加藤恒男元宇都宮市助役による歓迎挨拶で懇親会に移ると、菅義偉前内閣総理大臣の到着で、会場の盛り上がりは最高潮に達した。「法政大学のおかげで内閣総理大臣を務めることができた」との言葉に皆が感銘を受けていた。

その他には、ジャズの街として有名な宇都宮市で活躍しているジャズバンド、「スウィンギングバード」による演奏や、法政大学応援団とチアリーディングの力強い演舞などを楽しんだ。

恒例の校歌斉唱は、いつも通りとはいかず、マスク着用の上で実施となったが、コロナ禍を吹き飛ばす勢いで卒業生の絆を深めた。

滝浩栃木県校友会副会長による閉会の辞をもって式典の幕を閉じた。

6日の「エクスカーション」は、日光東照宮、日光山輪王寺・大猷院、二荒山神社、日光田母沢御用邸記念公園等を巡る、秋の日光を楽しむコースだった。

（文　勝又秀雄　写真　大桃信雄）

3日目のエクスカーションの記念写真

菅義偉前首相

秋元義彦氏（記念講演）

流鏑馬（特別公演）

日光和楽踊り

歓迎の辞

大会実行委員会 会長
法政大学 栃木県校友会 会長
寺内 正毅

「第28回法政大学全国卒業生の集い栃木大会」に全国各地からご参加頂き、有難うございます。心から厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス禍により2度延期いたしましたが、この間、全国の校友からご支援、ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。私共は延期の度に最善のお迎えをいたそうと努力して参りました。続けて3回の全国大会を実施したような気持ちです。

栃木県では10月にスポーツの祭典「いちご一会とちぎ国体」（第77回国民体育大会）が開かれ全国の皆さんと交流を深めました。今度は全国の法政大学卒業生の皆さんと絆を深めていきたいと存じます。

法政大学の総長先生、校友会会長様、後援会会長様の皆様は今年お代わりになりました。引き続きよろしくご指導お願いいたします。栃木県校友会もこの大会開催を通して得た様々な経験からさらに発展させたいと存じます。

栃木大会のレガシーとして高大連携支援、留学生受入支援を試みました。これは大学・校友会にとっても有意義な試みだと存じます。また、大会会場展示・大会記念誌には、県内校友の献本著書、絵画、作品、都市日光・明治期の外交官達が避暑地として過ごした美しい自然美にあふれた奥日光、那須・塩原・鬼怒川などの温泉地、焼き物で有名な益子、蔵の街栃木、足利氏発祥の地であり中世「坂東の大学」と称された足利学校やフラワーパークのある足利等を訪れ、栃木の自然・歴史・文化等に触れていただければ幸いです。

今後の法政大学・法政大学後援会・一般社団法人法政大学校友会のご発展を祈念いたします。

「2023年オール法政 新年を祝う会」の開催案内

日　時：2023年1月29日（日）
受付11時　開演12時～

場　所：グランドニッコー東京 台場
「パレロワイヤル」

会　費：1万2千円
（同伴ご家族は1万円）

申込方法　法政大学校友会ホームページに掲載

問い合わせ　（一社）法政大学校友会事務局
TEL03(3264)1831
FAX03(3264)4770

「第29回法政大学全国卒業生の集い」倉敷大会のご案内

2023年11月

3日（金）	4日（土）	5日（日）
記念ゴルフコンペ	大会式典・懇親会	エクスカーション（岡山観光）

主催　（一社）法政大学校友会
主管　法政大学岡山県校友会

編集後記

社会全体がコロナ禍を乗り越えようと工夫をこらしている。過剰な報道も少なくなったようだ。我が校友会もコロナ対策を講じて全国卒業生の集いが2年の雌伏から開催された。

年始めのオール法政新年を祝う会もオンライン開催から文字通りの顔を合わせる会が開催されようとしている。パートナー組織での会合も増えつつある。やはり人は向かい合って絆を保つのである。

校友会活動も困難な時期を経験することにより大きく発展していきたいものである。昨年は校友会クラブオフが発足し、各種の優待サービスが提供されている。女性会員の増強・活性化への取組み、SDGs活動など新たな動きも進んでいる。

新しい芽が育っていることを伝えたい。

（副会長　坂戸俊夫）

【お詫びと訂正】

本誌、22年8月、No.17号において、次の通り記載内容に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

6頁〈カレイドスコープ〉
欄左側の
【誤】田中恵美子
【正】田口恵美子

8頁〈新会長〉清水健一氏欄
【誤】リネン株式会社
【正】リオン株式会社